第 44 回関東地区公立中学校

修学旅行研究発表会

研究紀要

期 日 ： 平成２０年１１月２０日(木)
会 場 ： ホテルレイクビユー水戸

主　催

関東地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

後　援

茨城県・水戸市・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県 各教育委員会
茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県 各中学校長会

研究発表会の趣旨

修学旅行は近年、訪問地や体験の幅が広がり、その形態が多様になってきました。しかし、望ましい集団活動、個人的資質の向上、社会性の涵養、自主性・実践性の育成、人間としての生き方への志向といった“修学旅行の価値”は変わっていません。まさにこうした価値を追究していくことが修学旅行の目的なのです。その意味で、何を体験させるかということ以上に、体験によって何を学ばせるのかが大切なのです。

現在、学校教育の中心課題となっている「生きる力」とは、「生涯において生起される課題を自ら解決できる力」だと考えます。その力を育成するために教科、道徳、総合的な学習の時間、そして特別活動があります。教科は学問から、道徳は生き方・あり方から、総合的学習は身の回りを取り巻く課題から、特別活動は自治的活動や集団づくりといったように、それぞれの領域を生かした課題をもとに追究していくことが求められています。

修学旅行についても、「生きる力」を育成する観点から、自治的・集団的活動をもとに、学校では経験できない出合い・ふれあい・発見を通して喜びや感動を味わい、“学びの創造”に取り組む必要があると思います。つまり学びの価値を与えていく意図的な学習計画があるべきです。

今日、各学校は修学旅行を実施するにあたり、新しい教育の趣旨を汲み取り、こどもたちの主体性を生かし、さらには教育効果をより高めるために関係者や関係機関との連携を図る中で、創意に満ちた取り組みをされていることと思います。

このような趣旨から研究発表会の主題に「感動ある修学旅行の実現」を掲げ、各県教育委員会をはじめ、関係教育諸機関のご協力とご支援により、関東地区公立中学校修学旅行研究発表会を開催し、修学旅行の研究を深めることは大きな意義があることと考えます。

目　　次

1　研究発表会次第　…… 1

2　あいさつ

関東地区公立中学校修学旅行委員会会長　佐　藤　和　夫　… 2

財団法人 全国修学旅行研究協会理事長　中　西　　朗　… 3

3　研究発表

主題　「感動ある修学旅行の実現」

・発表　1　…… 5

「学級団結をねらいとした旅行的行事の実施」

水戸市立第五中学校　飯　野　兼　一　教諭

・発表　2　…… 31

「結束力を高め、個が生きる修学旅行のあり方」

－絆を深める体験活動を取り入れた自分発見の旅－

水戸市立内原中学校　鈴　木　由香子　教諭

4　指導講評　…… 59

茨城県教育庁義務教育課 指導主事　中　田　和　彦　様

5　研究発表のあゆみ　…… 60

研 究 発 表 会 次 第

1　大 会 主 題　　「感動ある修学旅行の実現」

2　日　　程

(1) 受　　付（12:45～13:10）

(2) 開会行事（13:10～13:35）

・ 開会のことば

関東地区公立中学校修学旅行委員会運営委員長　千　葉　秀　彦

・ 主催者あいさつ

関東地区公立中学校修学旅行委員会会長　　佐　藤　和　夫
財団法人全国修学旅行研究協会理事長　　中　西　　朗

・ 来賓祝辞

茨城県教育委員会教育長　　鈴　木　欽　一　様
水戸市教育委員会教育長　　鯨　岡　　武　様

・ 来賓及び指導者紹介

(3) 関修委活動報告(13:40～13:55)　　関修委研究委員長　仁　平　良　治

(4) 研究発表（13:55～15:05）

・発表 1

「学級団結をねらいとした旅行的行事の実施」
水戸市立第五中学校　　飯　野　兼　一　教諭

・発表 2

「結束力を高め、個が生きる修学旅行のあり方」
－絆を深める体験活動を取り入れた自分発見の旅－
水戸市立内原中学校　　鈴　木　由香子　教諭

(5) 休　　憩（15:05～15:20）

(6) 研究協議（15:20～15:50）

(7) 指導講評（15:50～16:20）

茨城県教育庁義務教育課　指導主事　　中　田　和　彦　様

(8) 閉会行事（16:20～16:25）

・ 閉会の言葉

茨城県中学校長会修学旅行委員会委員長　　千　葉　秀　彦

・ 諸連絡

研究発表会の開催にあたって

関東地区公立中学校修学旅行委員会
会　長　佐　藤　和　夫
（茨城県水戸市立第二中学校長）

この度、第４４回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が、関係各位の御尽力により盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

今年度の修学旅行も、各学校で大きな成果と多くの感動を得て無事終了し、早くも次年度の準備に入られているころではないでしょうか。改めて生徒たちに修学旅行のことを尋ねると、思わず頬が緩み、思い出の数々を語ってくれます。修学旅行が、生徒たちにとってインパクトの強い行事であることを再確認する次第です。

最近は、企画運営に教師と生徒が協働の歩調をとっている学校が大部分かと思います。それだけに、生徒たちの修学旅行への思い入れや印象も強くなってきているのでしょう。かかわることは、人間としての成長に大いにプラスであることは、どのような行事でも言えることです。これからも修学旅行を通して、多くの学校の生徒が、人間として大きく成長することを期待しています。言うまでもありませんが、修学旅行は、ほかの学校行事とは形体もかかる日数等も異なります。労力もかなり必要です。昨今は、どこの学校も、生徒一人一人が修学旅行をどのような位置付けで取り組んでいくのか、丁寧に検証しながら進めています。目的・スローガン・約束ごと等々統制のとれた修学旅行がなされています。教師にとっても、生徒理解の面から修学旅行は、大変貴重な教育活動です。このことは多くの方々の認めるところでしょう。

このような観点から、修学旅行を一層充実したものとするためには、これからも実践研究が不可欠です。修学旅行の意義や教育的効果・安全性の確保・生徒の主体的な活動の醸成などは、常にいつの時代でもその時代に即した実践が望まれます。マンネリ化は、目的からのズレや齟齬、意識高揚の低下をもたらし、教育的効果が上げにくくなります。常に、前進する修学旅行をつくることが私どもの使命でもあります。

これまで、当委員会では修学旅行研究会を毎年開催し、より充実した修学旅行を構築するために努力して参りました。研究発表校の研究を軸に、特色ある修学旅行の実践、自校の地域の特性を生かした修学旅行、生徒の主体的な活動を大切に実践した修学旅行、行く先々の文化・経済・歴史の研究を主眼とする修学旅行など、多くの試みが論じられてきました。正に、研究・協議・情報交換の場としての役割を果たして参りました。

本日の修学旅行研究発表会では、大会主題である『感動ある修学旅行の実現』をテーマに、研究発表、そして協議を予定しています。修学旅行の根幹である修学旅行の意義、そして創造性・安全性の追究、中学校生活の充実発展、生徒の主体的な活動の様子などが活発に話し合われる会となりますよう期待しております。発表校の先生方には、御多用の中での研究発表に御尽力を賜り、感謝の気持ちでいっぱいです。

結びに、本日の研究発表会の開催にあたり、御指導御助言をいただきました茨城県教育委員会をはじめ水戸市教育委員会、茨城県学校長会、茨城県教育公務員弘済会の方々、運営に携わった財団法人全国修学旅行研究協会、茨城県修学旅行委員会、そのほか御協力を賜りました多くの方々に厚く御礼を申し上げ挨拶といたします。

修学旅行研究発表会の開催にあたって

財団法人全国修学旅行研究協会
理事長　中　西　　朗

教育変革のとき、ここに、第４４回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会が開催されますことは、まことに意義深いものがあります。この研究発表会も、四半世紀にわたって継続して開催され、修学旅行の発展に寄与してまいりました。この間、関東地区公立中学校修学旅行委員会のご尽力はもとより、各県の教育委員会･中学校長会、特に開催県の格段のご支援をいただいておりますことに心から御礼申し上げます。本年度は、茨城県に大変お世話になります。よろしくお願い申し上げます。また、ご多忙の中、大勢の方々にご参会いただき感謝に耐えません。

修学旅行は、特別活動の学校行事として大切なカリキュラムです。特に、集団宿泊行事として、『平素と異なる環境において、集団行動を通して人間的な触れ合いを深め社会性の育成を図る』などの目的を達成しなければなりません。まさに、修学旅行は「活用型の学習」の集大成といえましょう。

修学旅行によって、日頃の生活と異なる未知なる自然や人々の営みから生まれた歴史･文化等に触れ、学習の自己投影がなされます。それが「生きる力」として機能していきます。ですから、「生きる力」の育成とは、究極において、個々の生徒の生き方への問いかけなのでしょう。それが、集団活動を通して自己を捉えるという学習として心の感動を伴って展開されることが重要となります。

本大会のテーマである「感動ある修学旅行の実現」は、このような意味合いの中で生まれたものです。その実践事例として集団として感動を創り上げた水戸市立第五中学校・水戸市立内原中学校の取り組みはすばらしいものです。まさに、私ども協会がご提案しております『感性をはぐくむ修学旅行』の実践化です。修学旅行を通じて、友達と共に生きることへのこだわりが感じられたとき、そこに共感･共鳴が生まれ、大きな感動が渦巻き、その感動が未来に生き続けます。体験が感動に高められたとき、感性がはぐくまれます。今後教育において、この感動･感性が、重要な新しい価値軸として求められるのでしょう。

最後になりましたが、研究発表校の飯野兼一先生・鈴木由香子先生、ご祝辞をいただきます茨城県教育委員会教育長　鈴木欽一様、水戸市教育委員会教育長　鯨岡　武様、指導講評としてご指導いただきます茨城県教育庁義務教育課　指導主事　中田和彦先生に心から御礼申し上げます。

学級団結をねらいとした旅行的行事の実施

茨城県水戸市立第五中学校　教諭（学年主任）　飯野　兼一

Ⅰ．はじめに

学区の特色と学校の概要と教育目標

Ⅱ．テーマ設定の理由

本校の教育目標との関連から

Ⅲ．修学旅行までの取り組み（第１学年，第２学年の旅行的行事）

１　宿泊を伴う共同生活学習（第１学年）
　＊学級別活動
　＊磐梯山登山

２　船中泊を伴う自然教室（第２学年）
　＊野外炊飯
　＊２年生の誓い

（１）期日
（２）宿泊地
（３）主な日程
（４）成果等

Ⅳ．修学旅行

１　修学旅行に対する基本姿勢

２　教育活動計画

３　実践から

（１）　総合的な学習の時間での取り組み
　　＊「東大寺・奈良の大仏」
（２）　道徳での取り組み
　　＊「旅行的行事：修学旅行，船中泊，宿泊学習」
（３）　学級活動での取り組み
　　＊「修学旅行で何を学ぶか・何を身につけるか」
（４）　アンケート
　　＊５／２２（木）　実施
　　＊７／　３（木）　実施
（５）　職員連絡版の活用

Ⅴ．修学旅行の取り組み・実践

（１）　期日
（２）　宿泊地
（３）　主な日程
（４）　実践から〔感想，生徒観察（教師から），アンケート等〕

ア　学級別活動
　＊京都市内学級別活動（徒歩）

イ　学級団結式
　＊東本願寺山科別院

Ⅵ．まとめ・課題

テーマ

学級団結をねらいとした旅行的行事の実施

Ⅰ．はじめに

本校学区は水戸市の北西部に位置し，石川町の一部，新原，曙町，袴塚，文京，堀町，渡里町，田野町に亘る広大な地域であり，住宅地帯と農業地帯が混在しているが，現在住宅地域として著しい発展を示している。

生徒数４８５名（１年生１５７名，２年生１５７名，３年生１７１名）の中規模校である。生徒たちは明るく素直であり，学習や清掃活動にもよく取り組んでいる。また，ＰＴＡ活動が活発である。

本校の学校の教育目標は，「勉学に励み，心身ともに健康な生徒を育成する～支え合い，伸ばし合う生徒の育成～」である。学校における教育活動の中心は，毎日の授業にあり，教職員の指導力向上が重要であると考えている。生徒が自分から学習に取り組み見通しをもって活動できる指導，さらに学習の場（社会）としての学級内で居場所づくりの基本となるコミニュケーション力が修得される授業づくりを目指している。

学校の教育目標　「支え合い，伸ばし合う生徒の育成」

（１）	授業に真剣に取り組む生徒	積極的学習（授業姿勢・活動・態度）
（２）	特別活動（部活動，生徒会活動）に積極的に活動する生徒	健康管理（清潔な環境・規則正しい生活） 積極的部活動，生徒会活動
（３）	集団の決まり・ルールを守る生徒	きちんとした身なり服装，節度ある言動
（４）	係活動，当番活動の責任を果たす生徒	係活動・当番活動，行事におけるリーダーへの協力
（５）	学級の仲間とコミニュケーションできる生徒	教え合い活動

Ⅱ．テーマ設定の理由

学校の課題として，教職員の情報掌握（学年会，生徒指導部員会），校内巡回日誌記録，看護日誌などから，次のようなことがあげられた。

- ○　授業離脱，徘徊
- ○　授業への集中不十分
- ○　ルール違反

また，修学旅行に関しては次のことがあげられた。

- ○　商業ペースにのせられている（観光旅行化）
- ○　行事本来のねらいのそう失
- ○　自主性という名に隠れた指導不十分

そこで，学校生活の基盤である「学級」の生活を充実させることが課題を解決し，学校の教育目標である「支え合い，伸ばし合う生徒の育成」を達成できると考える。

そのため，旅行的行事のねらいを，事前・当日・事後の活動を通して「学級」の団結を深めることに重点をおき，修学旅行をコミニュケーション力が修得される絶好の教育活動の場としてとらえて，テーマを「学級団結をねらいとした旅行的行事の実施」とした。

Ⅲ．修学旅行までの取り組み（第１学年，第２学年の旅行的行事）

１　宿泊を伴う共同生活学習（第１学年）

（１）　期日　　平成１８年６月１６日（金）～１７日（土）

（２）　宿泊地　磐梯青少年交流の家

（３）　主な日程

１日目［１６日（金）］

・7:30　　学校集合
・8:00　　学校出発
・9:00 ～ 15:30　学級別活動（磐城，阿武隈，会津，猪苗代方面など）
・16:00　　青少年の家入所式
・19:00 ～ 20:30 学級別活動（創作活動，学級レク，施設内活動など）
・22:30　　就寝

＊学級別活動一覧　（別紙資料１）

２日目［１７日（土）］

・5:30　　起床
・6:30　　朝食
・8:00　　青少年の家退所式
・9:00 ～ 14:30　磐梯山登山（八方台入口から）
・15:00　　八方台入口発
・19:00　　学校着・解散

（４）　成果等

１泊２日の行程で，貸し切りバスを利用して福島県にある磐梯青少年の家を宿泊地として実施した。「学級」の団結をねらいに，１日目はすべて学級毎の活動にした。内容は，学校出発直後から学級別活動を実施しながら宿泊地に向かった。宿泊地の夕食後は創作活動（赤ベコ，合格だるまづくり），学級レクレーションを計画した。２日目は学年全員で磐梯山登山を行った。不参加者はゼロ。参加者１６９名中１６７名が登頂できた。残り２名も８合目に当たる弘法清水までは登ることができた。長い時間を学級の仲間と共にすることで，各学級とも相互理解が深まりとても良い雰囲気で過ごすことができた。また，２日目の磐梯山登山でも随所に仲間を気遣う光景が見られた。そのことが全員参加，１６７名が登頂（残り２名も８合目まで登る）の成果となり，生徒の感想からも磐梯山登山を通して「学級」の団結が図られていることが分かる。

＊磐梯山登山の感想　　＊磐梯山登山の様子　（別紙資料２）

私が山で滑ったり転んだりすると「大丈夫？」という声があちこちで聞かれました。心配してくれる気持ちがとてもうれしかった。みんなで協力して登ろうという気持ちが湧いてきました。この登山を通して協力や団結が深まったと感じることができて，とても良かったと思います。

坂がとてもきつくて登るのは，もう無理と途中であきらめそうになりました。
でも，周りの人ががんばっている姿を見ると，自分もがんばろうと思いました。
頂上に着いたときの感動は忘れられません。そして，途中であきらめずに登ってよかったと思いました。

２　船中泊を伴う自然教室（第２学年）

（１）　期日　　平成１９年　６月　１日（金）～５日（火）

（２）　宿泊地　　ひだか青少年自然の家

（３）　主な日程

【第１日】６／１（金）

体育館集合－五中発－大洗着・乗船－大洗発（船中泊）

15:00　　15:45　16:30　　18:30

【第２日】６／２（土）

苫小牧着　苫小牧発－ひだか青少年自然の家着－野外炊飯（カレーライス）

13:30　　14:00　　16:30　　17:00

（ひだか青少年自然の家泊）

【第３日】６／３（日）

ひだか青少年自然の家発－ラフティング－ひだか青少年自然の家着

8:30　　9:40　　13:30

学年レクリエーション－野外炊飯（バーベキュー）－学級の誓い

14:00　　15:30　　20:30

（ひだか青少年自然の家泊）

【第４日】６／４（月）

ひだか青少年自然の家発－札幌・小樽内学級別活動－苫小牧港着・乗船

8:30　　17:00　　18:00

【第５日】６／５（火）

大洗着　大洗発　－　五中着・解散

14:00　　14:30　　15:15

（４）　成果等（観察から）

水戸市内公立中学校の２年生は，北海道を活動場所として「船中泊を伴う自然教室」を実施している。４泊５日という長い行程のなかで，ねらいである「学級」の団結が図れるような様々な活動（野外炊飯・ラフティング・２年生の誓い・学級別活動・学級内班別活動等）を計画した。

北海道に滞在する２日間，夕食づくりを行うというこれまでにない活動を取り入れた。北海道の大自然のなかで１日目はカレーライスづくり，２日目はバーベキューづくりを行った。また，北海道最終日である３日目の夜（ひだか青少年の家）に，各学級毎に部屋や場所を借りて「２年生の誓い」を行った。修学旅行で「学級団結式」を実施することを意識して計画した。

＊　学級別活動において

ア　野外炊飯

生徒は，学級内（８～１０人：男女混合）の班を作成して食事づくりを行 った。２日間共，準備から後片づけまで入れると４～５時間かかり，多くの活動時間，労力を要したが，大いに成果はあった。自分たちでつくらないと食べられない必要感があり，お互いに協力して工夫しないとおいしくできない。わいわいガヤガヤしながらも楽しく食事づくりができた。帰りの船中で「カレーライス」が出たが，自分たちがつくったカレーの方が断然おいしいと話していた。

また，大洗から学校へ向かう帰りのバスでも野外炊飯での失敗談等を楽しそうに話していたことからも，２日間の食事づくりは「学級」の団結を深めることができた。

イ　２年生の誓い

内容については，２年生に進級してからの自分の生活・勉強などを反省して，今後自分が目標にしたいことや学級の仲間にお願いしたいことをしおりに書かせて，発表し合った。３日間共に協力して過ごしてきたという共有感や連帯感，北海道最終日であるという感傷的な気分もあってか，しみじみと語り合うことができた。　（別紙資料３）

【船中泊を通して，成果として考えられること】（職員反省：学年通信掲載より）

□　時間を守った行動ができた。
諸活動の集合時間に遅れる生徒は皆無。
ひだか最終日。清掃や寝具点検を行い，青少年の家を出発した時刻は８：３０ピッタリ！
小樽の学級内班別活動でも，各学級ともに全員が集合時刻を守ることができた。

□　約束事が守れた。
大きなトラブルや問題は見られなかった。
持ち物についてもほとんどの生徒が守れた。
ただし，一部に携帯電話，ＤＳ，MD，ガムなどを持参していた生徒がいた。

□　「VerryGood」カードを配れる生徒１００人！
係活動や行動面で，自主的によく働いたり動いたりする姿が見られた。
ひだか最終日の朝の清掃，寝具点検は完璧！キビキビと動いていた生徒が多く見られた。
先生たちの「〇〇さんにも『VerryGood』カードをあげよう」が日が経つにつれて増えた。

ただ，４泊５日という長い時間を共に過ごすことだけでなく，「学級」の団結を図れるような活動を中心に計画，手だてをすることによって，予想以上の成果が得られた。える。また，好ましい人間関係づくりが行われ，個人としても集団としても，約束やルールを守ろうという雰囲気が生まれて規範意識の高揚が図れた。

Ⅳ．修学旅行

１　修学旅行に対する基本姿勢

教育活動個別計画（平成２０年３月作成）から

方針　・ねらいを明確にし，生徒にも明示する。
・学級団結をめざす。
・生徒同士，教師と生徒のコミニュケーションの場を設定する。

基本日程
１日目　奈良方面学級別活動
２日目　京都市内学級別活動
３日目　京都市内学級別活動

見学地選定　・共通　奈良東大寺・大仏
・宿舎を出発点として，原則として学級別に徒歩による移動をする
・見学地は歴史の教材として取り上げられた史跡を中心とする
・可能な範囲で，生徒の意見を取り入れる
・指導時数の合理化に努める（教えるべきことは，きちんと教える）

2　教育活動計画

学　　年	期　日	教科・領域名	時数	内　　容
2	2月 3月	五中タイム （総合的な学習の時間）	１０	ユニット 「東大寺・奈良の大仏」
3	4月	学級活動	6	修学旅行で何を学ぶか ・何を身につけるか方針の指導 コース決定，学級別見学地決定
		道徳	1	現実的問題を教材化した 題材 自作資料 「旅行的行事：修学旅行」
	5月	学級活動	2	事前指導，係打ち合わせ
		修学旅行当日		
		学級活動	2	アンケート１（総合評価） 修学旅行新聞
	7月	学級活動	1	アンケート２（総合評価）

3　実践

（1）　総合的な学習の時間での取り組み

総合的な学習の時間（五中タイム）を利用してユニット「東大寺・奈良の大仏」（指導計画：１０時間扱い）という自作教材を使って学習した。 内容としては，東大寺・奈良の大仏の成り立ち，時代背景や願い，作り方などについてワークシートを使用して学習した。　（別紙資料４）

また，学習のまとめとしてレポートを作成して，学級毎に発表会を開いたり掲示したりした。修学旅行に向けての意識づけや見学の際の予備知識となった。

［指導計画］

学習ユニット名：「東大寺・奈良の大仏」（１０時間扱い）			
時	学　習　内　容	時	学　習　内　容
1～2	オリエンテーション ，学習計画づくり	6	大仏のつくり方・つくった人々とその苦労
3	東大寺・大仏がつくられた時代と場所	7	仏像の種類と形，なぜつくられたか
4	仏教の歴史と仏教の日本への伝来	8～１０	レポート作成，発表
5	東大寺・大仏がつくられた時代のようすとねらい		

（２）　道徳での取り組み

本校では，「規範意識を高める道徳教育の在り方」という研究テーマのもと，実践意欲を高める授業の研究に取り組んでいる。特に，「日常生活に生じた事例」を教材化し，主に「権利と義務」について考えることができるワークシートを作成して，授業を行っている。

［自作資料：「旅行的行事・修学旅行」］ワークシートから　（別紙資料５）

出来事

まもなく，どの学年も旅行的行事が行われます。それに向けてそれぞれの学級で話し合いが始まりました。３年生のサヤカさんの学級にはお昼頃，異装・異髪で登校してきて昇降口周辺で騒いでいるケイコさんがいます。授業も集中できないぐらい騒いでいます。そのケイコさんは「修学旅行」にはいきたいと話しています。

サヤカさんは，そのことが本当だったらと思うと「修学旅行」が不安で楽しい気分にはなれません。

発問内容

○　もし，ケイコさんが「修学旅行」に参加したとしたらがどんなことが予想されますか。２通り考えて書いてみましょう。

○　ケイコさんが修学旅行に参加したら，サヤカさんの学級はどんな思いをしてしまうのでしょうか。

○　あなたの学級にケイコさんのような友だちがいたら，どんなアドバイスをしますか。書いてみましょう。

○　「修学旅行」に参加するための権利と義務とは何でしょうか。書いてみましょう。

（３）　学級活動での取り組み

「修学旅行で何を学ぶか・何を身につけるか」という題材で，修学旅行前に学級指導を行った。これまでの修学旅行で起こったことや起こりやすい事例を基にして，修学旅行での事故やトラブルについての知識や意識についてワークシートを使って学習した。また，話し合いや担任の話などから，修学旅行の意義やねらいについて再確認した。　（別紙資料６）

事例１　迷子になった。遅刻した。（集合時間に間に合わなかった）
事例２　ものを壊してしまった。
・奈良，京都の見学地　・旅館・レストラン（室内備品など）
事例３　事件を起こす，事故・事件に巻き込まれる。（生命の危険・負傷）
・一般人とのトラブル，他校生とのトラブル，交通事故，災害
事例４　ありがちな言動
・集団心理，気が大きくなる，興奮する，格好つける，見栄を張る
・まわりが見えなくなる，気をとられてしまう。

大切にしたいこと（担任の指導，話から）

- 集団で行動していること（１８１人で動く）みんなで作り上げる。
- 費用がかかっている（６万円以上，１日約２万円）
- 仲良く団結することがねらいである。（先生と生徒，生徒同士）
- いろいろな人のおかげで行事が成り立っている。（両親, 家族, 先生, 旅行業者, その他）

（４）　アンケート

５／２２（木）実施　第３学年：１５６名回答

学級団結式について

（１）場所や雰囲気は良かったですか。

はい　８０％　　いいえ　２０％

（２）学級団結式を行い，学級の仲間と力を合わせて頑張ろうと感じましたか。

とても感じた・感じた　８９％　　あまり感じなかった・感じなかった　１１％

（３）学級団結式をもとに，修学旅行後の諸活動に対して自分がどのくらい頑張れると思いますか。

①「体育祭・合唱コンクール・グランプリレースなどの行事」

とても頑張れる・頑張れる　９６％　　厳しい・とても厳しい　４％

②「受験でお互いを思いやれること」

とても頑張れる・頑張れる　９７％　　厳しい・とても厳しい　３％

③「学校目標：心正さん・真実求めん・身体錬えん」

とても頑張れる・頑張れる　９６％　　厳しい・とても厳しい　４％

学級団結式について

◇　みんなの前で発表して，どんな気持ちになりましたか。

□発表したことを，ちゃんとやろうと思った。
□言ったからには，がんばらなくては！と思った。
□少し恥ずかしかったけれど，自分の気持ちを伝えられて良かった。
□みんなの前だから，うそはつけないと思った。
□とても緊張したが，みんな真剣に聞いてくれて良かった。

◇　他の人の発表を聞いて，どんな気持ちになりましたか。

□みんな目標をもって生活しているのだなあと思った。
□一人一人の目標を聞いて，みんなに負けないように頑張ろうと思った。
□学級のために少しでも協力してあげようという気持ちになった。
□今まであまり話さなかった人の思っていることが分かることができて良い機会だった。

７／３（木）実施　１組の集計結果：３１名回答

（1）授業の３分前着席　１９名　　（2）授業態度や教え合い活動　１７名
（3）係や給食当番などの活動　１３名　　（4）清掃活動　１２名

その他
○声を掛け合うこと　○協力できるようになった　○態度が良くなった
○準備，移動が早くなった　○あいさつが良くなった

「今後，学級の仲間と頑張ろう・協力しようと考えていること」
○合唱コンクール１９名　○体育祭１４名　○グランプリレース７名
○普段の授業　○３分前着席　○清掃活動
○中央委員の呼びかけに協力している

（5）　職員連絡版の活用　（別紙資料７）

毎日慌ただしい学校生活のなかで，実際，気軽に会議や話し合いの時間がなかなか持てないの実情である。そこで，旅行的行事では，話し合いの時間を補うために，定期的に今後の予定，活動計画や内容，情報伝達・交換，決定事項の確認を職員連絡版を発行して共通理解を図った。また，定例の学年会での話し合いもスムーズにすすめることができた。

Ⅴ．修学旅行の取り組み・実践

（1）　期日　５月１８日（日）～２０日（火）天気：３日間曇り
スローガン
「古都の歴史を知る奈良（なら）東大寺大仏殿｜京都の街を歩いて学ぶ学級団結｜」

（2）　宿泊地　ホテル「金波楼」
京都市中京区瀬戸屋町４６７番地　柳馬場四条上る

（3）　主な日程

１日目　奈良方面学級別活動　「１３：３０～１９：１０」
１組　京都駅 ═ 薬師寺 ═ 東大寺大仏殿（奈良公園） ═ ホテル
２組　京都駅 ═ 平等院 ═ 東大寺大仏殿（奈良公園） ═ ホテル
３組　京都駅 ═ 平等院 ═ 東大寺大仏殿（奈良公園） ═ ホテル
４組　京都駅 ═ 平等院 ═ 東大寺大仏殿（奈良公園） ═ ホテル
５組　京都駅 ═ 平等院 ═ 興福寺 ═ 東大寺大仏殿（奈良公園） ═ ホテル

２日目　京都市内学級別活動　「７：４０～１７：００」
１組　ホテル…三十三間堂…清水寺…昼食…南禅寺…平安神宮…ホテル
２組　ホテル…京都御苑周辺…平安神宮…南禅寺…昼食…南禅寺…清水寺…ホテル
３組　ホテル…平安神宮…銀閣寺…南禅寺…昼食…清水寺…三十三間堂…ホテル
４組　ホテル…銀閣寺…平安神宮…南禅寺…昼食…知恩院…清水寺…ホテル
５組　ホテル…平安神宮…銀閣寺…昼食…清水寺…三十三間堂…ホテル

３日目　京都市内学級別活動　「７：５０～１３：００」

１組　　ホテル…北野天満宮…金閣寺…竜安寺…二条城…京都駅
２組　　ホテル…北野天満宮…金閣寺…竜安寺…三十三間堂…京都駅
３組　　ホテル…北野天満宮…金閣寺…竜安寺…二条城…京都駅
４組　　ホテル…北野天満宮…竜安寺…金閣寺…二条城…京都駅
５組　　ホテル…竜安寺…金閣寺…二条城…東寺…京都駅

（４）　実践から〔感想，生徒観察（教師から），アンケート等〕

３日間の活動をすべて「学級別活動」とした。
特に１日目には，総合的学習の時間に学習した東大寺・奈良の大仏を見学を入れた。

［生徒感想より］

総合的な学習の時間に学習した奈良の大仏は，想像以上に大きく驚きました。 また，修学旅行で最初に見た大仏ということもあり，僕のなかでは一番印象に残りました。 これを昔の人々が造ったと思うと，あらためて奈良時代の仏教への思いが強かったことを感じさせられました。

東大寺・奈良公園見学の様子　（別紙資料８）

ア　学級別活動（２日目）

京都市内学級別活動（徒歩）

宿舎が京都市内中央にあたる四条烏丸通りにあり，どの方面に行くにも便利であったことも徒歩で活動するのに好条件であった。東山方面を選んだ学級が多かった。

歩道は比較的空いていて混雑することもなく，他に迷惑をかけることもなかった。また，狭い路地を歩きながら，バスや電車では見過ごしてしまいそうな京都の街並み（歴史を感じる石畳，建物など）をゆっくりと見ることができた。

一緒に行動した添乗員が携帯していた万歩計で４万５千～５万歩を計測，距離に換算すると２０㎞ぐらい歩いたことになる。さすがに，宿舎に着いたときには大変疲れた様子であった。

［アンケート結果より］

◇　歩いて見た京都の街並みについて気づいたことや感想を書きなさい。

□看板や自販機が景観に合うように工夫されていた。
□道がほぼ直線だった。狭い道がたくさんあった。
□かわらの家が多かった。石の壁などが多かった。
□昔ながらの建物などを，目立たせようとして，店の看板が派手じゃなかった。
□「にらみがえし」を見つけた。
□きれいな川が多く流れていた。
□昔の建物を残しながら，京都の街を発展させようとしていることが分かった。

［生徒感想より］

「歩くことで学ぶ」
学級で歩いて，平安神宮⇒清水寺⇒知恩院を回りました。一人が遅れるとみんなが遅れる，一人が迷惑をかけるとみんなに迷惑 がかかるなど，時間を守ることを通して学級団結を学びました。また，１日歩くことがこんなにも大変であることが分かりました。

「団結深まる１日」
学級の全員と一緒に歩くことで，普段あまり話さない学級の仲間と話をしたり歩き疲れたときに励まし合ったりと，学級の団結を深めることができました。そして，小川や木々などの自然，神社や寺などの建物，昔の趣のある民家などから，古都の良さをしみじみと感じることができました。

［学級別活動の様子］　（別紙資料９）
［１組の行程］

ホテル…三十三間堂…清水寺…昼食…南禅寺…平安神宮…ホテル

ホテルから四条大橋まで全員で移動，そこで三十三間堂までの行き方と集合時間を教えて，班毎（男女別４人～６人）に移動を開始する。その後の見学地についても同様にして活動した。最初の三十三間堂では集合時間に遅れてしまった班があったが，その後は遅れる班はなかった。
集合時間を守ることや移動を主とした学級内班別活動を通して，規範意識と「学級」の団結を学ぶことができた。

イ　学級団結式（２日目の夜）

東本願寺山科別院の本堂を借りて法話（２０分）の後に学級毎に分かれて，一人一人が蝋燭を灯した厳粛な雰囲気のなかで行った。自分の決意や目標を発表し合うことで，相互理解が図られ，今後の「学級」の団結を深めるための大きな一助になったことがアンケートから分かる。また，学級の仲間との信頼関係を築くことができて，学級に対する帰属意識が高まり，修学旅行後の諸活動について，前向きな気持ちになっている生徒が多いことが分かる。実践（４）　アンケート　５／２２（木）実施

［学級団結式の様子］　（別紙資料１０）

Ⅵ. まとめ・課題

修学旅行から１ヶ月過ぎた７月に，「修学旅行で得たことが，毎日の皆さんの学級生活にどんな良い影響を与えているか」のアンケートを実施した。

実践（４）　アンケート　７／３（木）実施

修学旅行の成果が，修学旅行後も「学級」の団結や生活向上に着実に活かされていることが分かる。

また，学期末に職員間で学校評価を実施している。また，授業参観時には授業参観を通して学校の教育目標等について，保護者にアンケート回答してもらい学校評価に活かしている。

１学期末に行われた授業参観時の保護者のアンケート結果では，各項目で非常に高い評価となった。これも修学旅行の成果が，学校の教育目標である「支え合い，伸ばし生徒の育成」の達成に活かされていると考える。

［１学期学校評価］

Ａ…大変良くできた→８割以上達成　　Ｂ…どちらかというと良い→６割～８割
Ｃ…どちらかというと良くない（少し努力が必要）４割～５割
Ｄ…かなり努力が必要→３割以下

○　本校教育目標について（職員回答：２４名）

項　　目	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ｄ
(1) 授業・生活の評価の観点を明示しその観点に従って指導評価した。	１０	１２	１	０
(2) 部活動を計画的に運営し生徒への活動の明確化，的確な評価ができた。	９	９	５	１
(3) 生徒会活動を計画的に運営し生徒への活動の明確化，的確な評価ができた。	９	９	４	１
(4) 主となった行事（宿泊・船中泊・修学旅行）を計画的に運営し生徒への活動の明確化，的確な評価ができた。	１５	８	０	１
(5) 集団（社会・学校）の決まり，ルールについて現場指導を適切に行った。	１４	６	２	１
(6) 係活動，当番活動の現場指導と率先垂範を行った。	１４	７	２	０
(7) 学級の仲間とコミニュケーションができる場を設定した。	７	１１	３	０

［授業参観アンケート結果］　（保護者回答：３５名）

Ａ：大変思う　Ｂ：思う　Ｃ：あまり思わない　Ｄ：思わない

校　訓		項　　目	A	B	C	D
真実求めん	1	生徒は先生の話を集中して聞いている	19	12	2	0
	2	生徒はノートをきれいにとっている	15	13	0	0
	3	先生は話や説明がわかりやすい	23	10	0	0
	4	先生は板書が整っていて，わかりやすい	22	6	0	0
心正さん	1	生徒は相手に伝わるさわやかなあいさつができる	8	22	4	0
	2	生徒は服装がきちんとしている	11	2	3	0
	3	各教室は学習の場としてふさわしくきれいで整然としている	24	11	0	0
	4	授業中友達と教え合ったりお礼を言ったりする場面が見られた	13	15	4	1

学校の教育目標を達成した生徒を校訓達成者としている。校訓達成者とは，通知票「あゆみ」において，「生活と行動の記録」の項目で〇（おおむね満足できる）が６つ以上（基本的な生活習慣を含む）かつ，「教科等の関心・意欲」においてＡが８つ以上の生徒としている。

達成目標としては約３０％の生徒としているが，１学期は６０％を超える生徒が校訓達成者となった。また，「生活と行動の記録」の「責任感」と「思いやり」の項目では７５％以上の生徒が達成している。このことは「学級団結」が深まり，学級に対して所属感があり，充実した学級生活を送っていることを表している。

［１学期の校訓達成者］（第３学年：１７１名在籍）

学　級	１組	２組	３組	４組	５組	計
在籍数	３４	３４	３４	３４	３５	１７１
校訓達成者数	１９	２１	２２	２０	２５	１０７
達成度（%）	５６	６２	６５	５９	７１	６３

［生活と行動の記録から］

項　目	主な判定基準	１組	２組	３組	４組	５組	計
責任感	当番活動（給食・日直・係の仕事の取り組み）の責任を果たすことができる	２５	３０	１９	２５	３１	１３０
達成度（%）		７４	８９	５９	７４	８９	７６
思いやり・協力	友達に教えてあげる。お礼を言う。 学校・学年行事への協力ができる。	２５	２９	３０	２６	２９	１３９
達成度（%）		７４	８５	８８	７６	８５	８１

「学級」の団結をねらいとして，３年間の旅行的行事の取り組みを行ってきたが，その取り組みから知識を学び，意識が芽生え，行動化に結びついたことが，学校の教育目標の達成に大きく反映していると確信できた。また，保護者のアンケート結果からも，修学旅行を通して図られた「学級」の団結が更に深まり，「学級」が生徒が自分から学習に取り組み見通しをもって活動できる学習の場となり，より良いコミニュケーションが修得される場として成り立っていることが分かり，宿泊を伴う共同生活学習（第１学年）学習から修学旅行（第３学年）までの３年間を見通した取り組みが，正しいことを確信できた。

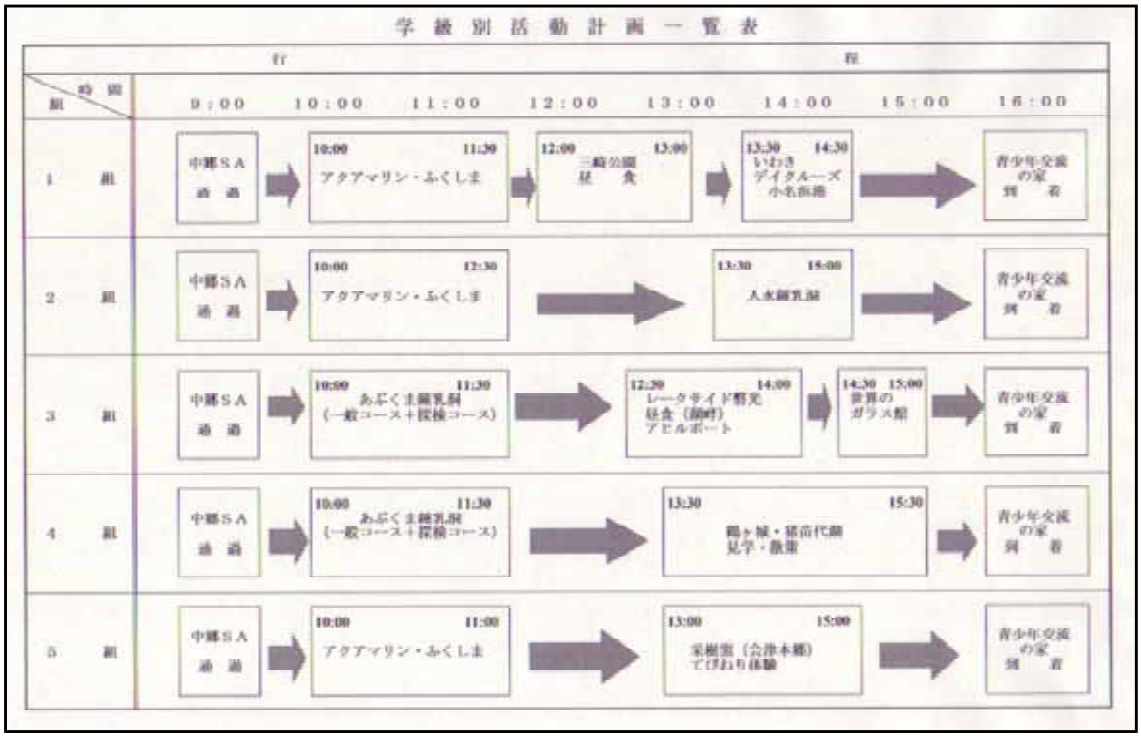
今後の課題としては，学級別活動や学級団結式の内容を検討・工夫したり，学級内小グループを中心としたリーダーの育成・活用など，「学級」の団結が効果的に図れるような他のアプローチの仕方を考えてみても面白いと考える。

最後に，生徒たちがアンケートに答えているように，今後の諸活動や進路選択，実現に結びつくように，更に「学級」の団結が深められるように具体的な手だてを考え，支援していきたいと考えている。

資　料　集

１～１０

（資料１）



学級別活動計画一覧表

行程

組＼時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
1 組	中郡SA 通過	10:00 11:30 アクアマリン・ふくしま		12:00 13:00 三崎公園 昼食	13:30 14:30 いわき デイタルーズ 小名浜港		青少年交流の家 到着	
2 組	中郡SA 通過	10:00 12:30 アクアマリン・ふくしま			13:30 15:00 人水鍾乳洞		青少年交流の家 到着	
3 組	中郡SA 通過	10:00 11:30 あぶくま鍾乳洞 (一般コース＋探検コース)		12:20 14:00 レークサイド磐光 昼食（湖畔） アヒルボート		14:20 15:00 世界の ガラス館	青少年交流の家 到着	
4 組	中郡SA 通過	10:00 11:30 あぶくま鍾乳洞 (一般コース＋探検コース)			13:30 15:30 鶴ヶ城・猪苗代湖 見学・散策		青少年交流の家 到着	
5 組	中郡SA 通過	10:00 11:00 アクアマリン・ふくしま			13:00 15:00 采樹窯（会津本郷） てびねり体験		青少年交流の家 到着	

（資料２）

（資料３）

２年生の誓い

（１）「近頃の私」自己の現状（自分の生活・勉強など）をしっかりと見つめよう。

私は最近，中学生らしいとは何かと，こんなことを考えている。私の一日は，まことに中学生らしくない，小学生と同じだ。朝，母親に起こされ，ダラダラしながら登校の支度をして，朝食もろくろくかまずに食べて急いで学校へ来る。遅刻寸前。

いつか先生が「朝，登校時に，今日はこういうことをしようとか，こんなことを学んでやろうとか，その日の目的を持って学校へ来なさい」と言ったことを思い出す。とんでもない，とてもそんな気持ちにはなれない。朝の私はいつもあわてている。忘れ物も多い。宿題もやってこない。

やらなければと思うのだが，おっくうになり，「ま，いいや，みんな，やって行かないもの」と，そんなことを思ってだらだらテレビを見てしまう。テレビのないときはビデオだ。夜更かしして，朝起きられない。けじめがつかない。こんなだらしのない生活を続けているのだからいいことはない。中学生を卒業しても行きたい高校は行けないだろう。

一番悪いのはけじめがないこと。一つのことから次のことに移るのに，ダラダラしていることだ。無駄な時間が多い。

勤めに出ている母親が帰ってくると，ちょっと勉強するふりをする。でも，真剣になれない。勉強に集中できないのだ。気が散って困る。といってテレビを見ていても，テレビにも集中していない。勉強しなくちゃと思う。こんな状態の私，本当に嫌になる。こんな私は大嫌いだ。

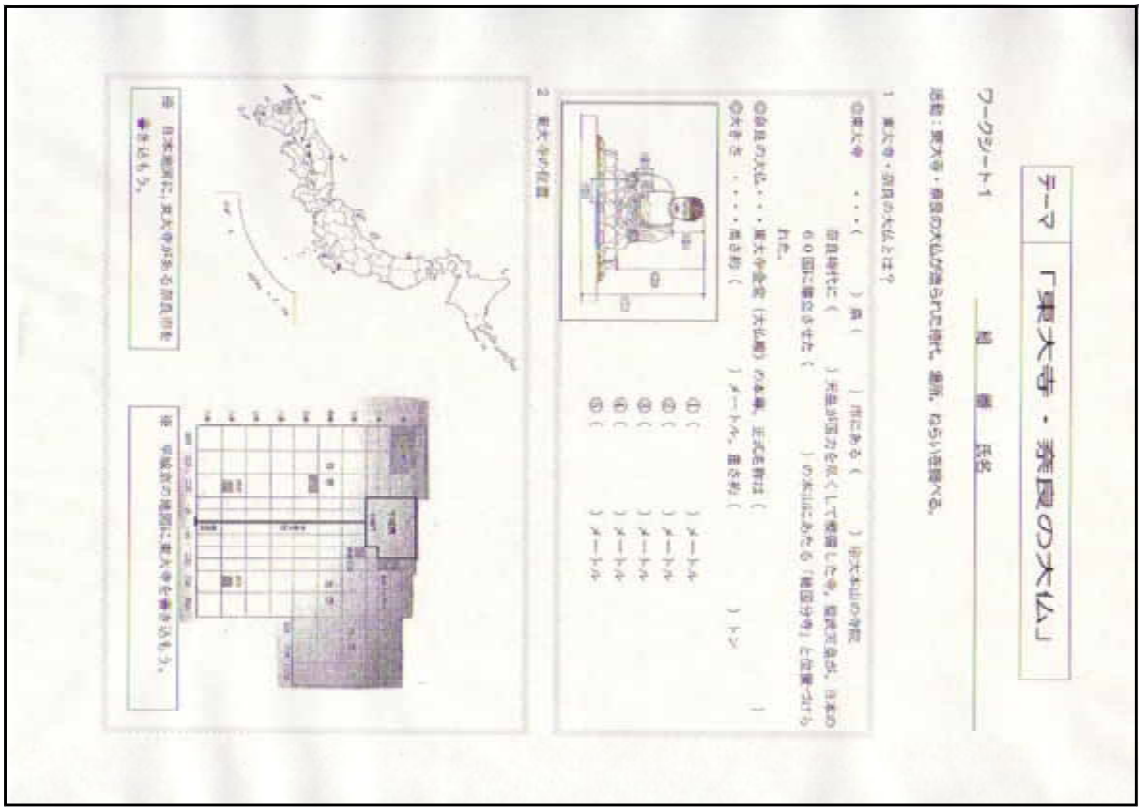
（２）「近頃の私」を振り返り，今後自分が目標にしたことを書いてみよう。

- □ 毎日１時間は勉強する。
- □ 夜１１：００には寝る。
- □ 朝６：００に起きる。
- □ 家を７：４０に出る。（遅刻しない）

（３）「目標達成」のために学級のみんなにお願いしたいことを書いてみよう。

- □ 遅刻しなかったら，「よくがんばっているな」と声をかけてほしい。
- □

（資料４）



テーマ　「東大寺・奈良の大仏」

ワークシート１　　組　番　氏名

目的：東大寺・奈良の大仏が造られた時代、場所、ならいを調べる。

１　東大寺・奈良の大仏とは？

◎東大寺　・・・（　　）県（　　）市にある（　　）宗大本山の寺院

奈良時代に（　　）天皇が国力を尽くして建立した寺。聖武天皇が、日本の

６０国に建立させた（　　）の大仏にあたる「総国分寺」と位置づけ

た。

◎奈良の大仏・・・東大寺金堂（大仏殿）の本尊。正式名称は（　　）

◎大きさ　・・・・高さ約（　　）メートル、重さ約（　　）トン

①（　　）メートル

②（　　）メートル

③（　　）メートル

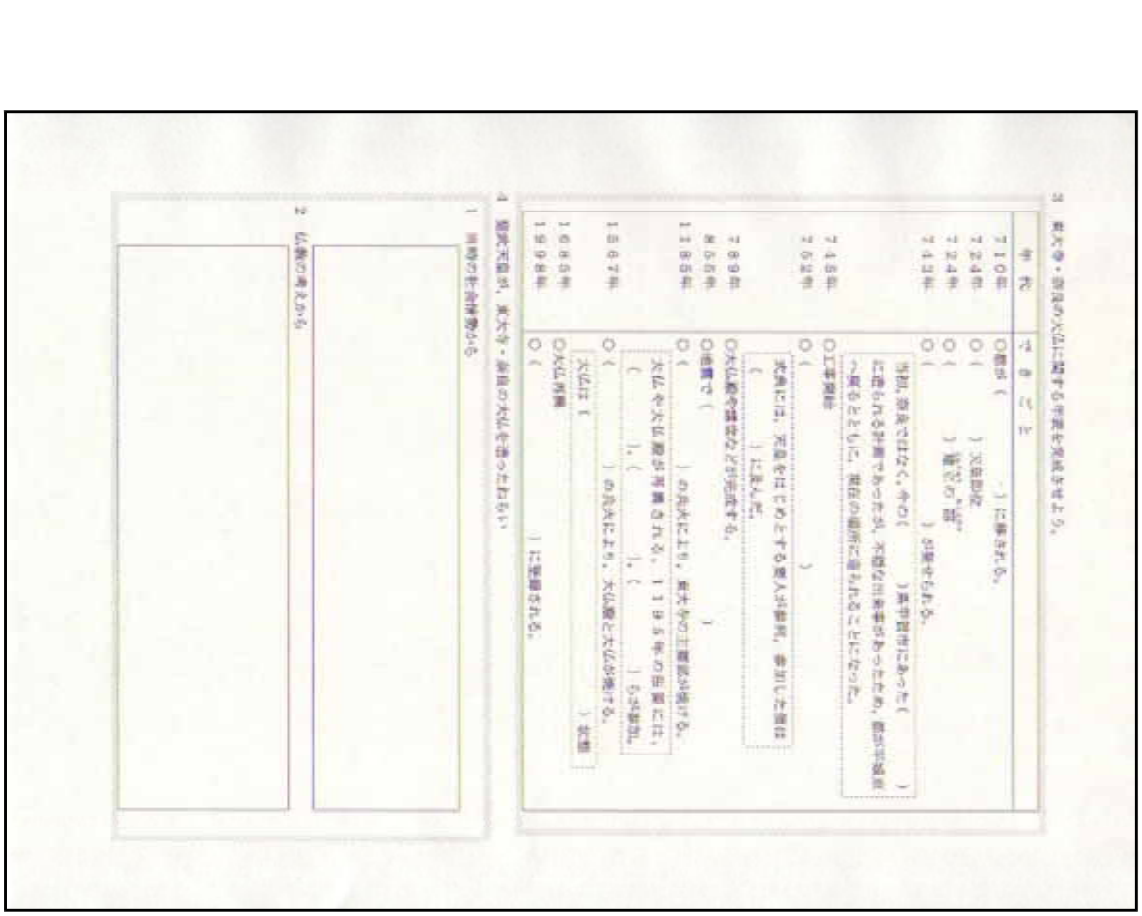
④（　　）メートル

⑤（　　）メートル

２　東大寺の位置

問　日本地図に、東大寺がある奈良県を書きぬこう。

問　奈良市の地図に東大寺を書き込もう。



３　東大寺・奈良の大仏に関する年表を完成させよう。

年代	出来ごと
７１０年	○都が（　　）に移され、
７２４年	○（　　）天皇即位
７２４年	○（　　）「紫香乃宮」
７４３年	○（　　）が発せられる。
	当初、奈良ではなく、今の（　　）恭仁宮付近にあった（　　）に造られる計画であったが、天皇は反乱があったため、都は平城京へ戻すとともに、現在の場所に造られることになった。
７４８年	○工事開始
７５２年	○（　　）　　）
	完成には、元国をはじめとする庶人が参列、参加した盛大な（　　）にぎんだ。
７８９年	○大仏殿や講堂などが完成する。
８６５年	○倒壊で（　　）　　）
１１８５年	○（　　）の力により、東大寺の復興が始まる。
	大仏や大仏殿が再興される。１１８５年の印書には、（　　）、（　　）、（　　）らが登場。
１５６７年	○（　　）の力により、大仏殿と大仏が焼ける。
	大仏は（　　）状態
１６８０年	○大仏再興
１９９８年	○（　　）に登録される。

４　聖武天皇が、東大寺・奈良の大仏を造ったわけ

１　当時の生活環境から

２　仏教の考えから

（資料５）

道徳ワークシート【５月第２週】

年　組　番　氏名

1　出来事「旅行的行事：修学旅行，船中泊，宿泊学習」

まもなく，どの学年も旅行的行事が行われます。それに向けてそれぞれの学級で話し合いが始まりました。2年生のケンタくんの学級には，異装，異髪で登校してきて，清掃や係活動はさぼり自分勝手に生活して他人に迷惑をかけているケイコさんがいます。ケイコさんの姿や行動を考えると，「船中泊」が不安で楽しい気分にはなれません。

2　考えてみよう

（2）　もし，ケイコさんが「船中泊」に参加したとしたらがどんなことが予想されますか。2通り考えて書いてみましょう。

（A）

（B）

（2）　ケイコさんが船中泊に参加したら，ケンタくんの学級はどんな思いをしてしまうのでしょうか。

（3）　あなたの学級に，ケイコさんのような友だちがいたら，どんなアドバイスをしますか。書いてみましょう。

（4）　「船中泊」に参加するための義務とは何でしょうか，書いてみましょう。

3　意見交換や話し合い，先生の話しを通して学んだことを書いてみよう。

……

……

……

◇　終わったら「心のノート」ｐ８９を読んで書いてみよう。

道徳ワークシート【５月第２週】

年　組　番　氏名

1　出来事「旅行的行事：修学旅行，船中泊，宿泊学習」

まもなく，どの学年も旅行的行事が行われます。それに向けてそれぞれの学級で話し合いが始まりました。3年生のサヤカさんの学級にはお坊頭，異装・異髪で登校してきて昇降口周辺で騒いでいるケイコさんがいます。授業も集中できないぐらい騒いでいます。

そのケイコさんは「修学旅行」にはいきたいと話しています。サヤカさんは，そのことが本当だったらと思うと「修学旅行」が不安で楽しい気分にはなれません。

2　考えてみよう

（2）　もし，ケイコさんが「修学旅行」に参加したとしたらがどんなことが予想されますか。2通り考えて書いてみましょう。

（A）

（B）

（2）　ケイコさんが修学旅行に参加したら，サヤカさんの学級はどんな思いをしてしまうのでしょうか。

（3）　あなたの学級にケイコさんのような友だちがいたら，どんなアドバイスをしますか。書いてみましょう。

（4）　「修学旅行」に参加するための権利と義務とは何でしょうか，書いてみましょう。

□権利

□義務

3　意見交換や話し合い，先生の話しを通して学んだことを書いてみよう。

……

……

……

◇　終わったら「心のノート」ｐ８９を読んで書いてみよう。

（資料６）

修学旅行で何を学ぶか
何を身につけるか？

1　修学旅行の大切なねらいは２つ
（1）実行（助け合う，協力する，話し合う，責任を果たす）を通して，学級の団結を強くする。
（2）奈良・京都の歴史的遺産を，直接見聞する。

2　予想される事故と対応
（1）なぜ事件を起こす，起こる。

- うれしいので，こころがおいあがってしまう。
- みんなといっしょなのでぶんがおおきくなってしまう。
- 気をとられてしまう，不安になる。

事例１　迷子になった，遅刻した。

（1）どうすればいい
- 担任へ連絡する。（電話など）。
- 交番で相談する，近くの家お店で聞く。
- タクシーを拾い，次の集合地点へ送ってもらう。

（2）やってはいけないこと
- 班から外れない。（班長を中心に）
- 自分勝手に行動しない。
- お互いに声をかけ合い，確認をし合う。

事例２　ものを壊してしまった
- 奈良・京都の見学地（国宝級の建物，備品など）
- 旅館・レストラン（室内備品など）

（1）どうすればいい
- 慎重に行動する。
- 担任へ連絡・相談をする。
- 謝罪する。
- 弁償をする。

（2）やってはいけないこと
- 知らないふりをする，逃げる。
- 誰かのせいにする。

事例３　事件を起こす，事故・事件に巻き込まれる（生命の危険・負傷）
- 一般人とのトラブル，他校生とのトラブル，交通事故，災害

（1）どうすればいい
- 慎重に行動する。
- 担任へ連絡相談する。（自分で解決しようとしない）
- 班でまとまって活動する。（一人にならない）

（2）やってはいけないこと
- まわりの迷惑や誤解を受ける言動をする。
- 他人へ気安く声をかける。（ちょっかいを出す）
- 無責任な言動をする。

事例４　ありがちな言動
- 集団心理　気が大きくなる，興奮する，格好つける，見栄を張る
- 一人では出来ないけど
- まわりが見えなくなる，気をとられてしまう。

3　大切にしたいこと
- 集団で行動していること（１８０人で動く）みんなで作り上げる
- 費用がかかっている（６万円以上，１日約２万円）
- 仲よく団結することがねらいである。（先生と生徒，生徒同士）
- いろいろな人のおかげで行事がなりたっている。（両親，家族，先生，旅行業者，その他）

（資料７）

平成１９年度　第２学年

修学旅行に向けて 速報版 No.1 1/28(月)

1 はじめに

◇ 先週の修学旅行の下見では、大変お世話になりました。１日目は宿泊場所の下見。京都市内東部方面を徒歩で回ってきました。２日目は奈良の東大寺を見学しました。

修学旅行は新年度５／１８（日）～２０（火）ですのでまだまだと感じますが、ねらいは「学級の団結」を図ることです。そのときだけ、その場だけ良くてならねらいである「学級団結」は図れません。「学級団結」は、毎日の生活や学習を通して深められるもので、「権利と義務」を果たすことで学級の一員として認められていきます。

そして、修学旅行に参加する権利を与えられるのであります。そのことを、毎日の生活のなかで生徒たちに感じて意識させて実践していくことで修学旅行のねらいを達成していきましょう。

2 下見について

① 宿泊施設

宿泊先　京都市中京区御池高倉通西北　大丸京都店近く　（地図参照）

部屋割り　　１クラス男女３部屋ずつ（１部屋５，６人）で利用

※　１クラスは２部屋（１部屋１０～１２人）

② 雨が降らなか、京都市内東山方面を徒歩で回ってきました。（午後１：４５～４：３０まで）

宿泊先 ～ 八坂神社 ～ 知恩院 ～ 平安神宮 ～ 南禅寺 ～ 清水寺

20分　20分　20分　10分　40分

□ どの見学場所も２０分ぐらいあれば見学地に付けます。また、回り方やバスや電車を使えばもっと違う計画が立てられるでしょう。

□ 買い物や飲食についても、どの見学地、道路沿いにあります。（生徒が好むかどうかは別にして）

場所によっては、湯豆腐やうどん、懐石など１０００円以上する店しかありません。

（知恩院、平安神宮、南禅寺周辺）

このような機会ですから、思い切って、京都の名物料理も良いのでは。マクドナルドやラーメンで済ますより良いと思います。

③ 東大寺、奈良公園

□ 空いていましたので、ゆっくり大仏を見てきました。奈良公園は鹿がたくさんいました。

春日大社や二月、三月堂などは見ませんでした。暗くて開けませんでした。

平成２０年度　第３学年

修学旅行に向けて 速報版 No.2 4/2(火)

1 今後の予定（別紙参照）

◇ 修学旅行のねらいは何と言っても「学級団結」を図ることです。その団結は、当日の活動だけでなく、事前の話し合い活動や準備を通して深められていくものです。また、約束事や決まり事を確実に守ることは、学級の規範意識を高めることにつながります。また、今年度も学年一音の時間はなかなかとれない状況であるため、学活の時間やその他（自分の教科時間を学活に振り替えるなどして）を利用して学級ですすめることが多くなると考えています。

2 係一覧

係名	事前の活動	旅行中の活動	担当者	生徒
総務・渉外	・日程計画 ・渉外関係 ・保護者への連絡 ・参加申込み等の把握	・全体計画 ・渉外	飯野先生 藤井先生	
実行委員会	・全体計画 ・スローガン、約束等の決定 ・集会活動の計画、運営 ・しおり作成	・実行委員、係代表生徒の掌握及び指導 ・出発式、学級団結式の運営	◎大森先生 飯野先生	実行委員長 副委員長
部屋長（班長）	・部屋長指導 ・部屋の掌握 ・部屋の連絡	・部屋の指導、連絡、伝達 ・整列指導、人員確認等 ・学級団結動で動くときの班長	渡辺先生	
研修・記録	・カメラ、ビデオの準備 ・フォトコンテストの計画 ・新聞、作文指導	・旅行中の写真及びビデオ撮影による記録 ・しおりの活用指導 ・フォトコンテストの選定、表彰	◎宮本先生 栗原先生	
保健・入浴	・事前の健康調査 ・係員への連絡及び指示 ・入浴のマナー指導	・生徒の健康状態の把握（保健調査と係員指導） ・保健衛生指導 ・救急看護	◎吉田敏先生 佐藤先生	
美化・寝具	・美化活動の計画、指導 ・係員への連絡及び指示	・寝具の準備、後片づけの指導 ・宿舎内での清掃指導	吉田智先生	
食事	・食事のマナー指導 ・係員への連絡及び指示	・食事及び食後の指導 ・弁当や飲み物配布指導	大津先生	
会計	・積立金の管理 ・未納金の集金事務	・諸費の支払い ・会計報告書の作成	飯野先生 藤井先生	

（資料８）

（資料９）

（資料１０）

結束力を高め，個が生きる修学旅行のあり方

～絆を深める体験活動を取り入れた自分発見の旅～

茨城県水戸市立内原中学校　教諭（学年主任）鈴木　由香子
教諭　大高　裕已，川村　美佳
岡村　直之，芳賀　洋介
西連寺美穂
講師　正路　健太

Ⅰ．はじめに

Ⅱ．テーマ設定の理由

Ⅲ．修学旅行までの取り組み

1　第１学年

（１）校外学習

（２）３年生を送る会

2　第２学年

（１）船中泊を伴う自然教室

（２）立志式

Ⅳ．修学旅行の取り組み・実践

1　ねらい

2　期　日

3　宿泊地

4　日程及びコース概略

5　実践から

（１）根本中堂での演舞

（２）坐禅・奉仕活動

（３）班別・体験活動

（４）旅行後のまとめ

Ⅴ．成果と課題

Ⅰ．はじめに

本校は茨城県水戸市の西部に位置し，昭和の初期は，満蒙開拓団の基地が置かれた純農村地帯であった。しかし，近年は２００５年２月の水戸市との合併に伴い，内原駅を中心に周辺の土地開発が進み，住宅地や大型商業施設が立ち並び，古くからの町並みや自然環境が大きく変貌しつつある。

現在の生徒数は３９９名（１年生１３８名，２年生１２１名，３年生１２６名，分教室１４名），学級数は１５クラス（普通学級１１，特別支援学級４）の中規模校である。生徒たちは素直で明るく，学習や部活動に積極的に取り組んでいる。

また，旧内原時代から，「地域で唯一の中学校（三小一中）」としての地域からの期待が大きく，様々な形で地域の人たちとの触れ合いを大切にした活動を行っている。

特に，本校の特色ある教育活動の一つである，３年生の選択学習の時間を利用して２００１年から実施している「地域協働学校」の取組みは全国的にも珍しく，「学校教育（音楽，体育，美術，技術・家庭）」と「社会教育（公民館の自主グループのサークル活動）」を融合させ，中学生と地域の人たちが同級生として一緒に学ぶユニークな取組みとして「第１８回全国生涯学習フェスティバル・まなびピアいばらき２００６・体験学習まるごと学校公開」の中で取り上げられ話題となっている。

Ⅱ．テーマ設定の理由

本校の教育目標は，「豊かな心を持ち，知性に富み，心身ともにたくましい生徒の育成」である。この目標の達成に向けて，本校では２００７年から，「人間力を高める教育活動の追求～確かな学力，豊かな心，自分を生かす力の育成を通して～」という研究テーマを掲げ，「豊かな心育成プロジェクト」「学力向上プロジェクト」「自分を生かす力育成プロジェクト」の３つのプロジェクトチームによる研究を進めている。

「豊かな心育成プロジェクト」では，「地域協働学校」をはじめとする，「地域に開かれた学校」づくりを推し進める中で，内原中学校の生徒たちに身に付けさせたい力として，人とかかわる力（人間関係調整力）を高めることが課題となっていた。

そこで，３年間の中学校生活における学校行事を意図的・計画的に実施し，個を生かし絆を深める感動体験を味わわせることを積み重ねることで，学級・学年の団結力を高め，あたたかい人間関係をつくれる生徒（①認め合い，高め合う人間関係②思いやりと感謝の気持ちが表現できる人間関係）を育てたいと考えた。

Ⅲ．修学旅行までの取り組み

１　第１学年

（１）校外学習

①　ねらい

ア　入学したばかりの時期，集団生活を通して，学年・学級の団結力を高めると共に,生徒相互・生徒と教師が心の交流を図り，互いの信頼関係を深める。

イ　学年・学級におけるリーダーの指導力を高め，学級成員一人一人の自主性や責任感を育てて，自治的な学年集団・学級集団づくりに役立てる。

ウ　徒歩で往復することで，体力づくりをめざし，また校外活動を通して，公的な場での正しいマナーを守る態度を養う。

エ　総合的な学習の時間（１年のテーマ「ふるさとを知ろう」）の一部として位置づけ，徒歩で妻里地区を通りながら，各自の課題解決のための情報収集に意欲的に取り組むことができる。

②　期　　日　　平成１８年5月１７日（水）小雨決行　雨天順延（予備日１８日）

③　実施場所　　水戸市少年自然の家　水戸市全隈町８０－１

④　交通手段　　徒　歩

⑤　費　　用　　１，０００円
（施設使用料，昼食費，飲み物代，洗剤代，集合写真，しおり等）

⑥　日　　程

学校出発 ―徒歩― くれふしの里古墳公園 ―徒歩― 水戸市少年自然の家 ― 入所式
８：３０　　１１：００

昼食作り・食事・片づけ ―― レクリエーション ―― 退所式
１３：００　　１４：００

少年自然の家発 ―徒歩― 学校着・解散
１４：１０　　１６：００

⑦　成果と課題　＜　資料　①　＞

○　総合的な学習の時間のテーマである「ふるさとを知ろう」を各クラスの創意工夫にまかせ実施した。新しい仲間（３つの小学校から入学）と協力して行う初めての行事として，各クラスごとにテーマとコースを決め，調査をしながら少年自然の家を目指した。地域の方への取材やインタビューの仕方など情報収集の方法を学ぶことができた。

○「学級の団結」を第一のねらいとし，学校出発から学級別コースで実施した。各クラスの妻里小出身者が中心となって計画をし，コース係，インタビュー係，記録係など生徒一人一人が活動できる場ができた。

○　昼食は，少年自然の家でカレー作りをし，学級対抗の歌合戦を行った。それぞれ各学級とも得意分野を生かした協力体制で活動ができていた。

○　往復約２０キロの行程で徒歩で行った。生徒たちは体力に不安がある仲間を気遣ったり，かばい合ったりしながら，全員が完歩することができた。

●　入学して１か月半であり，行事として学級成員の相互交流や楽しさを中心とする充実は得られたが，小学校時のリーダーに依存する傾向にあり，学年「みんな」という意識を育てるまでには至らなかった。学級委員だけでなく今後いろいろな場面での学年リーダーの育成の必要性を感じた。

資料　①　＜　文集うちはら　より　＞

◇　平成１８年１１月２１日，１学期の校外学習での反省をもとに，総合的学習の時間に「もっとみんなの住んでいる地域を知ろう」をテーマに掲げ，①内原地区を知る，②友人のよさを知る，③学年リーダーの育成をねらいとして，自転車による鯉淵・内原地区へ校外学習を行った。
　取材や話し合い活動を通して，自分の考えを深める力をつけ，友達や家族，地域の方々とあたたかい関わりをもつと共に人とのふれあうよさを実感させたいと考えた。

○　中学校生活にも少しずつ慣れたこともあり，１学期の時よりも，後期の学級委員を中心に，鯉淵・内原小出身者も加わり生徒たちで計画を立て，行動することができた。

○　学級のまとまりとともに，各部ごとの連帯意識も育ってきた。

●　後期の生徒会役員に何人か立候補したが，１名しか生徒会に送れなかったので，後期の学年委員会（学級委員）の活動をさらに活性化したいと考えた。

○　成果のひとつは，学年委員会で「いじめについて考えようキャンペーン」ができたことである。この頃には友人関係も広がってきたが，生徒たちの中では，嫌な「あだ名」で呼ばれているという悩みがあがってきていた。さっそく各学級でアンケートをとり，話し合いをし，学年委員会でも話し合い，１週間「人が嫌がるあだ名を使わない」キャンペーンを行い，学年集会をもった。
　生徒たちは，悪気でなく呼んでいたり，その呼び方が人によって好意的にとられる時とそうでない時があることを知り，人間関係を見直すことにもつながった。

○　まだまだ陰では，人間関係のいざこざはなくならなかったが，学年の生徒全員で取り組むことができ，学年委員の生徒たちには一つの自信となった。

（2）３年生を送る会

① ねらい

ア　卒業生一人一人に卒業の喜びを味わわせ，卒業後生活に対する期待と希望をもたせる。

イ　在校生には，後輩として卒業生の卒業を喜び，祝うとともに伝統を受け継いで，さらに発展向上しようとする態度を育てる。

② 期　日　平成１９年3月9日（金）

③ 内　容

何といっても，この学年の方向性を位置づけた取り組みであった。

水戸市では中学２年で「船中泊を伴う自然教室」を実施している。そのため３学期の総合的な学習の時間は「ふるさと茨城を知ろう」，社会科では「北海道を知ろう」，さらに音楽では「郷土の音楽～民謡～」の学習を行った。音楽では「ソーラン節」で表現方法の１つとして，踊りながら歌うという形を学習した。

３年生を送る会で自分たちの感謝の思いを「学年ひとつ」という形で表現しようという提案が学年委員会でなされ，学級で話し合いが行われた。

３つの小学校のうち２校で「ソーラン節」を踊った経験があり，卒業生に自分たちが気持ちをひとつにして踊ることで，パワーを届けよう，そして２年生に向けてさらに良い学年作りをしていこうということで，踊りと卒業生へのメッセージをすることにまとまった。

さっそく学年委員会が中心となって，練習計画をたてた。各クラスごとにビデオをもとに練習が始まった。鯉淵小出身者が前面でリーダーシップをとり，全員が踊れるようになるまで何回も練習を行った。学年委員は，当日の隊形や服装の着こなしなど学年の約束事を話し合い，学年の生徒に伝えて当日を迎えた。

３年生を送る会でこのような形での送る会は，内原中で初めての試みであった。生徒たちの絆や表現力に圧倒され，学年職員はじめその場に参加した生徒や教職員に深い感動を与えた。　＜　資料　②　＞

生徒たちの感想は，一人一人が精一杯やることができた満足感と全員で踊れたという達成感がほとんどであった。

また,先生方や先輩たちから称賛の言葉をかけられてうれしそうであった。

④ 成　果

○　生徒たちが,「学年ひとつ」という形で表現しようという提案が生徒たちの中から出てきた。「自分の得意なことで表現しよう」「表現力をつけよう」「自分をアピールしよう」という教師側の投げかけが少しずつ生かされてきた。

○　練習では，リーダーとなる生徒が周りを引っ張るばかりでなく，普段おとなしく，目立たない生徒が思いっきり踊ることで「自分を出す」ことができてきた。

この取り組みは次年度の立志の年に向けてスタートと位置づけていたが，さらに，学年職員間で学年ひとつになっての踊りを生かす場はないものかと検討した。そこで，船中泊期間中に札幌で開かれているＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭りに参加できないかと組織委員会に連絡をとったところ，すでに申し込み期限は過ぎていたが，前年度から道外の小中学生のチームに開かれていた「感動枠出場」での参加ができることがわかった。

蛇足ながら，平成１９年度は本校の２年生が，平成２０年度は，同市内の水戸第二中学校の２年生がこの「感動枠」でＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭りに参加した。水戸市内でもいくつかの学校がこの踊りを取り入れているが，本場の祭りに参加したのは本校が最初である。

＜　資料　②　3年生を送る会　＞ →

2　第２学年

（１）船中泊を伴う自然教室

①　ねらい

ア　船中や北海道での宿泊を伴う集団生活を通して，ふるさとや自分自身を見つめなおすことができる。

イ　北海道の雄大な自然や歴史・文化を実体験するなかで，人々とのふれあいを通して互いに認め合い高めあう集団作りを行うことにより,豊かな人間関係を培う。

ウ　年間を通して行う立志関連学習の第一歩として，自らの生き方を考え，課題解決や探求活動に自主的，主体的に取り組むことができる。

②　期　　日　　平成１９年６月８日（金）～１２日（火）　〈４泊５日〉

スローガン　「　北海道の感動を受けとめろ！　～キズナ深める船中泊～　」

③　実施場所　　北海道苫小牧市，洞爺湖町，札幌市

④　宿泊場所　　北海道立洞爺少年自然の家（９日）　北海道虻田郡洞爺湖町岩屋１５
定山渓温泉グランドホテル（１０日）北海道札幌市定山渓温泉東４丁目

⑤　日　　程

第１日目　６月８日（金）
学校発 ―― 大洗港・乗船 ―――― 大洗港発 ――――
15:40　16:40 ～　18:30　（船中泊）

第２日目　６月９日（土）
苫小牧港着 ―― 学級別活動 ―――― 洞爺少年自然の家（泊）
13:30　15:15　16:15（ナイトハイキング）

第３日目　６月１０日（日）
洞爺少年自然の家 ―― YOSAKOI ソーラン祭り体験 ――
8:30　10:00　13:00
札幌市内班別活動 ―― 定山渓グランドホテル瑞苑（泊）
13:30　17:30

第４日目　６月１１日（月）
瑞苑発 ―― ラフティング体験・サイクリング体験 ――
8:30　9:30　11:00
西山火口散策 ―― 苫小牧港・乗船 ―― 苫小牧港発 ――
15:00　17:40 ～　18:45　（船中泊）

第５日目　６月１２日（火）
大洗港着 ―――― 各地区解散
14:30　16:00 頃

学級別活動

１組　有珠山ロープウェー，パークゴルフ

２組　札幌大倉山シャンツェ

３組　洞爺湖遊覧船，中島散策

４組　牧場体験　東室蘭～伊達紋別ＪＲ北海道乗車

⑥　事前の活動

ア　水戸藩よさこい連の指導　　＜　資料　③ ＞

・　２年となり，まず，学年集会で新しい学年の先生方に披露することからスタートし，クラスでＹＯＳＡＫＯＩソーラン踊りの練習が始まった。しかし生徒たちの取り組みも意識も今ひとつであった。そこで総合的な学習の時間に，水戸藩よさこい連の方たちにボランティアで指導に来ていただいた。

水戸藩よさこい連は，１２名という少人数であったが，最初の演舞で生徒たちはその真剣さと迫力に圧倒された。各クラスごとに指導を受ける中で，生徒たちの取り組む姿勢が変わっていった。この活動を通して，演舞の最初と最後には力強い挨拶をすること，常にお客様に見ていただくという気持ちと感謝の気持ちを忘れないこと，笑顔を忘れないこと，ひとつひとつの動きに気持ちや気合いを込めること，行動は素早くすることなどを学ぶことができた。また，水戸藩の方々も当日札幌で行われるＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭りに参加するということを知り，札幌での再会を約束して最後に全員で踊り，船中泊への思いを新たにするこ

とができた。

イ　練習の過程　　＜　資料　④　＞

・　組織委員会との打合せで当日の行動がわかり，連休明けから準備と練習に入った。まず，船中泊実行委員（＝学年委員）を中心に，鳴子作り，ＹＯＳＡＫＯＩソーランの振り付けを考えた。内原中らしさを入れるために，前奏に校歌の一部を録音し，間奏部分は「内原音頭」の振り付けを取り入れた。踊りは，大通公園の１００ｍパレード形式を５回と８丁目のステージ形式が１回。水戸藩の方達に聞いたとおり，かなりハードなものであった。どちらも校庭に同じ大きさの線を引いて実際の練習を繰り返した。１００ｍ×５回はかなりきついものだったが，ダンスリーダーたちの声かけで，着実に練習が行われた。また部活動等に迷惑をかけないように，昼休みを使ったり，放課後短時間で行うなど周囲への配慮も心がけた。

・　大会のメインステージでは，前列は学年委員の配置が決まっていたが，中心位置に来る場所を誰が踊るか希望者を募った。予定人数よりも多くの希望者がありオーディションを行った。その希望者の中には，運動能力が高くない生徒や，普段クラスではほとんど自己主張しないような生徒も含まれていた。練習を重ねるたびに，思いっきり自分を解放し，楽しく踊る生徒たちの姿が見られることに学年職員も驚かされた。結局，学級担任全員で選考したが，落ちた生徒が，悔し涙を流したことは印象的だった。

・　いよいよ出発して船に乗り，翌日朝には，出発前に取材を受けたことが新聞に載ったというメールが届き全員さらに意欲を新たにした。北海道が近づくと，船のテレビではＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭りの中継をやっていて，生徒たちは興奮状態，職員も気を引き締めた。洞爺少年自然の家には，学級別行動のあとの到着，「ナイトハイク」まで一切練習の機会はなかった。終了時間をかなりオーバーして，早く就寝させなくてはという時に，生徒たちから「踊らなきゃ」という声があがった。そこで警備員の方にお願いして，１日の活動で疲れているはずなのだが夜９時半過ぎから『内中ソーランナイト』となった。

＜　資料　③
水戸藩よさこい連のご指導を受ける　＞

新聞　2007年（平成19年）6月9日　土曜日

本場で最高の踊りを

札幌「YOSAKOIソーラン祭り」

水戸 内原中生があす出場

北海道札幌市で開催中の「第十六回YOSAKOIソーラン祭り」に、水戸市立内原中（岡市内原町、千葉秀彦校長）の二年生百二十七人が出場する。北海道の文化を学ぼうと練習を始めたが、宿泊学習が開催期間と重なったことから参加を申し込んだ。ステージは最終日の十日、本場の観客に最高の踊りを披露しようと、生徒たちは練習に励んできた。

水戸市内の中学二年生は毎年、フェリーで北海道を訪れる宿泊学習を行っている。同校では小学校でよさこいソーラン踊りを体験した生徒が多く、今年二月から北海道の文化を学ぶために練習に取り組んでいた。

旅行日程と祭りの期間が重なるとが分かってから、教師たちは飛び入り参加などの道を模索。三月に現地の実行委員会に問い合わせた際、中学生以下への普及を目的にした参加費無料の「感動出場枠」を知った。

すでに締め切り日を過ぎていたが、熱意が通じて特例で参加が実現。道外からの出場ということもありメーンステージでの演舞に加え、会場を巡るパレードにも参加できることになった。

約百人の区間を往五回踊り歩くため「ステージと合わせて六回踊る体力をつけないと」と実行委員の中嶋恭輔さん（三）。校庭に道幅やステージの広さに合わせた線を引き、週四回、放課後を中心に練習を重ねた。

「内原らしさ」を出そうとアイデアも盛り込んだ。冒頭に全員で校歌の一節を歌い、振り付けに「内原音頭」の動作を導入。引率の教師九人も、背中に「内中魂」と抜かれたTシャツを着て踊る。「生徒と一緒に感動を味わいたい」と川村美佳教諭（三）は語る。

八日に茨城を出発。苫小牧や函館湖を経て十日に札幌入りする。実行委員長の曽川昌大さん（三）は「本場の人たちが驚くような気合を見せて、みんなでいい思い出をつくりたい」と意欲を見せた。

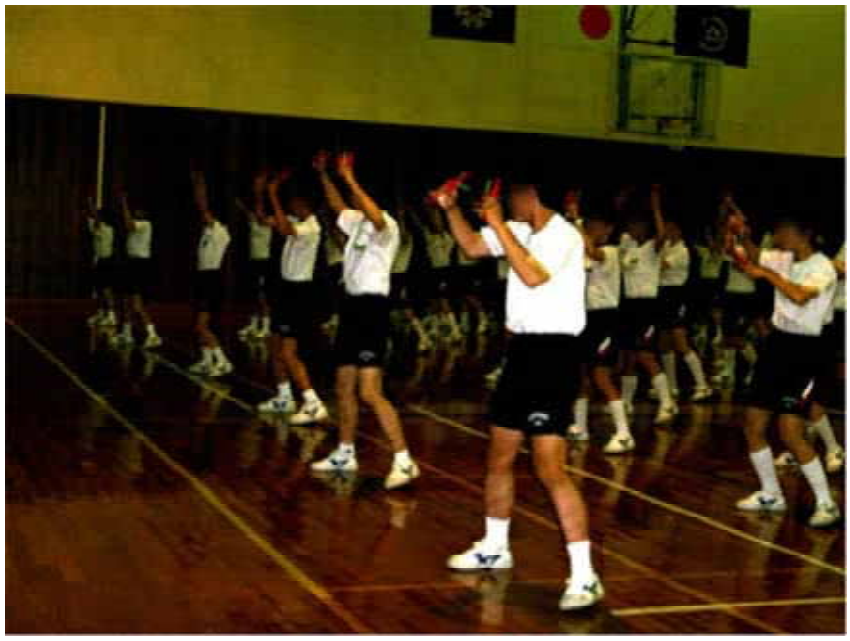
（村田知宏）

校庭で練習に励む生徒たち＝水戸市内原町の市立内原中

＜　資料　④

茨城新聞の記事

ネイパル洞爺での夜練習 ＞



⑦　当日の様子

・ 学年便り（平成１９年７月９日）から　＜　資料　⑤　＞

１０日，洞爺湖の朝は本当に良い天気で，すがすがしい空気を胸一杯に吸い込んで，朝のつどいを行いました。超スピードで朝食・部屋の点検を終え出発しました。途中中山峠で全クラス揃い（３，４組のバスは爆走？暴走？）各クラス色のハチマキをキリリと締めて札幌市内に入りました。大通公園は予想以上に人があふれ，出場チームのきらびやかさに唖然としながらも，黒Ｔシャツの『内中魂』はなかなかよいものでした。

～余裕を持って到着したのに，ここで音源のトラブル！あわや踊れないという事態にまでなりかけました～

しかし，添乗員さん，ＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭りのスタッフの方達のおかげで，予定より１６分遅れで，大通公園北コースの踊りが始まりました。

５丁目，６丁目，７丁目と踊るたびに，緊張感がほぐれ声が出て，自然と笑顔で踊りながら祭りを楽しみました。桟敷席からの応援の声や，水戸藩よさこい連の方達の励ましの拍手がとてもうれしく感じました。

給水の後の９丁目が一番踊りが揃っていてきれいだったかと思います。１０丁目を踊りきって，ちょっとほっとしたら涙が出てきました。生徒たちは本当に全力で踊りました。スタートのトラブルにもめげず，自信をもって踊りきりました。拍手！！

そしていよいよメインステージ！時間が思っていたよりも少しあったので十分休めました。

～ただこの時，膝の故障を抱えていた生徒たちの痛みの訴えが続出！学年職員も引率職員も全員が生徒と踊るために，何ももたずに参加。添乗員さんやその友人のボランティアの方達に，助けていただいてクールダウンできました。もう一つの話，１人の女生徒が膝が痛くて踊りたくないと泣きながら訴えてきました。踊らなくても全員でステージにあがろうとやさしく説得してくださったのは，教頭先生でした。～

我々の前は，３連覇している『新琴似　天舞龍神』“ 究極の和 ” が特徴の横綱チームです。会場は満員！後ろから見ていても本当に迫力のある素晴らしいものでした。この時間帯に設定してくださった組織委員会にも感謝の一言でした。

『内中魂』は実行委員長の曽川さんの気合いのこもったかけ声でステージに登場。札幌の青い空の下の４分半，１２７人＋９人の渾身の踊りだったと思います。

・ 保護者の応援

ＰＴＡ学年委員長さんはじめ学年委員の方々のご理解，そして保護者の方の応援もありがたいものでした。Ｔシャツやハチマキ，鳴子などをそろえることができたのもこの学年ならではでした。

また，当日の撮影は，本校のアルバム担当の写真屋さんが札幌まで来てくださり，何人かの保護者もメインステージの客席から応援してくださいました。

・ たくさんの方々の支援

ＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭に参加するにあたって，本当にたくさんの方々に支援をいただいた。組織委員会やボランティアスタッフの方々には，感動枠出場への様々な配慮をしていただいた。また当日のトラブルにも親切に対応していただいた。

添乗員さんやその友人の方々には，踊っているときの給水補助や生徒看護を，宿泊施設の方には食事・就寝時間への配慮をいただいた。

北海道県人会のかたには，激励会と生徒たちへの差し入れ，本校が統合される前の双葉中卒業生という北海道在住の方には，写真を撮って学校へ送っていただいた。

また，船中泊前には茨城新聞社の取材を受け，北海道へ出発した後掲載されたが，見ず知らずの方からも学校へ励ましの電話をいただいたそうである。

記念撮影の時の写真をハガキで各ご家庭に送りましたが，誰もいい笑顔だったのがおわかりいただけたかと思います。その他添乗員さんのお友達でチームにボランティアでついてくださった方たちには給水でお世話になりました。

さらにおまけが…ＳＴＶは１日中放映しているのですが，内中の後ろ姿が映っている場面を添乗員さんのお友達が録画してくださって，定山渓のホテルの夕食会場で見ることができました。（感謝です！）

その後は，楽しみにしていた班別活動。短い時間でしたが，いろいろなところを見たり聞いたり味わったり…充実したものになったようです。

集合場所の札幌ファクトリーでは，北海道茨城県人会の方たちが待っていてくださいました。会長さんは９０歳を超えられるとかで，副会長さんはじめ事務局の方たちが内原中の応援のためにかけつけてくださいました。一人の方は石岡出身だそうで内原を知っていると話しておられました。北海道のすばらしさを話し，全員に記念のお菓子をくださいました。北海道で茨城やふるさとのことを考えられるよい機会になったと思います。

学校へ帰ってきたら，北海道在住，**昭和２５年双葉中卒業の大関勝男さん（内原中の大先輩です）**からの写真が届いていました。祭りに来ていて撮ってくださったそうです。本当にいろいろな方からの応援・励ましがありがたいことでした。

＜　ネイパル洞爺の朝のつどい ＞

＜　大通公園北コースの踊り　＞

＜　資料　⑤　　８丁目　　メインステージ　＞

⑧　成果と発展　　＜　資料　⑥　　＞

○　４泊５日の諸活動の計画・実践を通して，自主性・自立性・責任感など，社会の一員として必要な資質や態度を身につけさせたいと考えた。実行委員会を中心に，班別活動の話し合いでは，人間関係づくりや個の考え・願いを集団の中で生かせるよう支援した。

○　第１６回「YOSAKOI ソーラン祭り」に感動体験枠で参加出場することができた。組織委員会の方をはじめ，ボランティアスタッフ，添乗員，バスの乗務員，宿泊施設の関係者，北海道茨城県人会，北海道在住で旧双葉中の卒業生の方，水戸藩よさこい連他，多くの北海道の人々のおかげで無事終えることができた。
　その方たちとの出会いや支援があり支えていただいた方たちへの感謝の気持ちが大きく育った。

○　航海の体験や，ラフティング，ナイトハイキング，西山火口見学など北海道の雄大な自然の中での貴重な体験を通して自然の大切さや壮大さを感じることができた。

○　各学級別活動をとおして，それぞれの体験を楽しみ生徒相互及び教師と生徒とのよりよい人間関係を育てることができた。また牧場体験では動物だけでなく牧場の方との交流などもできた。

◇　「立志の１年」のスタートであるという意識をもち，諸活動に取り組むことができた。集団生活を通して，自己の役割を意識し，自信と責任感が育った。
　さらにこの結束力を高める手段のひとつとして取り組んできた『ＹＯＳＡＫＯＩソーラン』をこの船中泊で終わりにするのではなく，立志式までつなげたいと考えた。

＜　資料 ⑥　文集　うちはら　から　＞

平成19年度　「船中泊を伴う自然教室」についてのアンケート

１　「船中泊を伴う自然教室」を実施しての生徒の感想　（１２７名）

項　　目	はい	どちらかといえばはい	どちらともいえない	どちらかといえばいいえ	いいえ
（1）船の生活は楽しかった	１０７	１４	5	1	0
（2）北海道のすばらしさを味わえた。	１２２	4	1	0	0
（3）友達や先生とのふれあいを深められた。	１１３	１３	1	0	0
（4）自分の成長にプラスになった。	１０８	１７	2	0	0

（5）とてもよかったことは，どんなことですか。　（主なものを順に３つ）

① 船の中では
- 友人とゆっくり話すことができ，その人のことをもっとよく知ることができ，他の人とも仲良くなれたこと。
- 日の出を見たことと，デッキ見学，イルカを見たこと。
- 揺れの体験。酔わなかったこと。

② 体験活動では
- 北海道の自然に触れられた。（ラフティング，サイクリング，乗馬，川の中，水の冷たさ）
- 周りの景色の美しさを楽しめた。
- 西山火口のボランティアガイドさんの話やインストラクターとの話

③ 宿泊施設では

＜　ネイパル洞爺　＞
- 友達と協力して生活し，責任をもって行動できた。
- 洞爺湖のきれいさとナイトハイク。
- 体育館でＹＯＳＡＫＯＩを踊ったこと。

＜　定山渓温泉　＞
- 風呂の大きさ，温泉の気持ちよさ。
- 朝・夕食のおいしさ。
- 笑顔で迎えてもらったこと，よく眠れたこと。

④ 札幌の見学では
- 名所を見学でき，土地の人と話ができたこと。
- 時間を守って自分たちだけで行動できたこと。
- 札幌の街を味わった。（街並みのすごさ，おみやげが豊富，ラーメン）

⑤ その他
- ＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭に参加できたこと，大勢のお客さんの前で踊ったことの感動

２　「船中泊を伴う自然教室」を実施しての保護者の感想　（１１９名）

船の生活は楽しかったようである。	１０１	１４	4	0	0
北海道のすばらしさを味わえたようである。	９５	２０	3	1	0

○　今回の「ＹＯＳＡＫＯＩソーラン」は，一生涯忘れることのない貴重な体験になったことと思います。子どもたちにこのような機会を与えていただき，心から感謝申し上げます。ありがとうございました。（同様な感想　多数）

○　茨城県人会から記念品（お菓子）を頂いたと聞いて大変感謝したい，と同時に郷土愛（ふるさとを思う気持ち）について考えさせられました。周りの方々に支えられ，助けられ，生きていることを再確認しました。

○　おみやげを買ってきてくれたり，ハガキを出してくれたり，家族と離れた生活により，家族を思う時間がもてたかなと思います。

○　船中泊を通して自信がついたと思います。

（２）立志式

①　ねらい

ア　１４歳という節目の年を迎えた生徒一人一人に，今までの自分の生き方を振り返らせ，将来に向かっての志を立てて，その目標達成に向けて日々努力することの大切さを確認する。

イ　「立志の１年」の締めくくりとして，自分や自分を取りまく集団（学校・家庭・地域社会）について見つめ直し，新たに自分の生き方を考える機会とする。

ウ　立志式式典や立志式関連の諸活動を通して，仲間で一つのものを作り上げたり，自分の足跡を残したりすることの大切さを知るとともに，支えてくれた人たちに感謝する気持ちをもち，公的な場面での正しい礼儀作法を養う。

②　期　　日　　平成２０年２月２２日（金）

スローガン　「　自分の花を咲かせよう　～小さな花から大きな花へ～　」

③　実施場所　　内原中体育館

④　内　　容

１４歳という節目の年に，今までの自分の生き方を振り返らせ，将来に向かって志を立てることを目標とし，「立志の１年」の集大成となる立志式を実施する。

実行委員会（後期学年委員がそれぞれのチーフとなり，前期学年委員がサポートする体制）を中心に，全員が８つの担当に分かれ，２月の立志式に向けて活動を行った。

ア　学年歌づくりと合唱　　学級ごとに言葉を選び担当でひとつの詞にまとめた。さらに作曲担当の生徒が，歌詞に合わせて作曲をした。

イ　記念品づくり　　１２月に笠間へ校外学習を行い全員が，今心にある『文字，言葉』を入れて作成した。

ウ　学年旗づくり　　自分の名前を自分色で表現する。『内中旋風』を巻き起こせの願いを込めて学年で『風』の文字を選んだ。

エ　クラスの主張　　立志式当日，歌に込めたクラス，一人一人の決意表明をしたクラス，劇で表現したクラス，替え歌と決意を表す文字を発表したクラスなど「わたしたちの思い」として行った。
＜　資料　⑦　＞

オ　映像で振り返る１年　　入学してからを振り返り，ナレーション原稿や映像の作成を行った。

カ　YOSAKOI ＆南中ソーラン内原中バージョン
内原小で踊っていた『南中ソーラン』を内原中バージョンにまで高めようと，実行委員の他に希望者を募り，踊りの会得と練習に取り組んだ。

キ　感謝の手紙　　今までの年月を振り返り，支えてくれた親に感謝の手紙を書いた。

ク　式典　　他の係の連携を中心に話し合い，当日の司会進行を務めた。

＜　資料　⑦　クラスの主張　＞

⑧　成果　＜　資料　⑧　文集うちはら　から　＞

プログラム

1. 開式の言葉
2. 校長先生のお話
3. 実行委員あいさつ
4. 学級要求「私たちの誓い」
5. 歌唱「[illegible]」
6. 感謝の手紙朗読
7. 全員合唱「[illegible]」
8. 閉式の言葉

平成19年度 立志式

2月22日(金) 13:30～

スローガン　自分の花を咲かせよう

―小さな花から大きな花へ―

絆が深まったソーラン節

ソーラン節をはじめて踊ったのは、一年生の時の三年生を送る会でした。

二年生になり船中泊で北海道のステージで踊ったとき、感動する事ができました。

ですが、まとまりはありませんでした。

現在では、きちんとまとまり一人一人の意識があって、とてもよくなりました。

踊りとしては、完全ではありませんが、実行委員として最後までやりとげ感動を味わい、内中旋風を吹かせていきたいです。

「希望の花を作詞して」

学年歌の制作にあたって、みんなから募集した歌をもとに「どんな思いを歌に込めたいのか。」を作詞係四人で考えながら、みんなの心に残る歌詞になるように、何日もかけてつくりました。

一番は「今の私たち」、二番目は「旅立ち」のイメージで、身近にあるもの・感じるもの・伝えたい事などを歌に込めました。

作成するのは大変でしたが、一生心に残る歌になればいいなと思います。

希望の花

学年歌づくりの担当になった時は、今まで曲なんか作ったことないのに、大丈夫かな思いました。いざ作りはじめてみると、やはりすごく大変だったし、時間もかかりました。そんな中、他の係の人とも協力してできあがった「希望の花」は、とても思い出深い曲です。この歌をみんながもっと好きになって、いつまでも心の中に残っていてくれたら、うれしいです。学年歌作りに関われてよかったと思います。

映像係をふり返る

立志式での「映像でふり返える立志の一年」ということで、ナレーション原稿の作成、映像の内容、時間配分などといった活動をしました。みんながこの映像を見て、一年をふり返ってもらって、「この一年、本当に楽しかったなぁ～」と思ってもらえるように作成しました。

立志式という大きな行事で、一生懸命に活動ができたので、とてもよい経験になりました。

式典係をふり返って

式典係の活動はまにプログラム作成や司会進行です。今回の立志式は例年とは違いソーランや記念品作りなど様々な催し物がありました。その中で式典係は全体の進行状況の確認などを行ってきました。

式典係で一番大変だったのは他の係との連携です。他の係とあれがいい、これがいいと話し合い本番にの至みました。

一生懸命やってきたことが本番で実を結んでまた一歩成長したと思います。

学年歌「希望の花」

＜　資料　⑨　第２学年代表　修了式の発表　＞

１年を振り返って

２学年代表　学年委員長

この１年間を振り返ると，たくさんの行事があり全てが思い出に残っています。その中でも心に残った行事が２つあり，その行事は一生の思い出になるものです。その２つとは船中泊と立志式です。

１つめの船中泊では，「北海道の感動を受け止めろ，キズナ深める船中泊」というスローガンのもと，フェリーで北海道へ行ってさまざまな活動を行うことができました。
１組は有珠山に行き，２組は大倉山のジャンプ台に行き，３組は洞爺湖の中島に行き，４組は室蘭に行き牧場体験をしました。それらは全て北海道でしか見られないもの，体験ばかりでした。そしてそれ以上に一番心に残ったものは，ＹＯＳＡＫＯＩソーランでした。２年生全員で踊ったＹＯＳＡＫＯＩソーランは，繰り返し練習してきた中で一番の演舞だったと思います。そして大きな感動も体験することができました。

そしてそれは，　学級の団結力だけではなく，「学年ひとつ」という気持ちで活動したことが大きな力をつけたのだと思います。これは２年生だけで終わるのではなく，これから最高学年に向けてさらに磨き，高めて行きたいと考えています。

２つめの立志式では，実行委員の人たちを中心に一人一人が積極的に取り組むことができたと思います。自分は「立志」ということについてしっかりと考えられ，今まで関わってくれた人たちに感謝の気持ちを伝えることができました。そして自分の将来についても考えられた行事になりました。

この一年間多くのことを学び，体験して成長することができました。学んだことや体験したことを今年の学年目標「心輝情笑」を超えるすばらしい学年づくりに生かしていきたいと思います。

Ⅳ．修学旅行の取り組み・実践

1　ねらい

（1）　日本の伝統である古都を訪ねて，先人の文化遺産である建造物，美術品，伝統的産業や自然等を見聞することにより，既習の学習の整理と確認をし，さらなる意欲向上の機会とする。

（2）　集団行動をとおして，望ましい社会人としての学習体験をさせるとともに，生徒相互，生徒と教師との一層の理解とふれあいを図り，協力・責任などの態度を高め，学習先での礼儀や健康・安全に留意する態度を養う。

（3）　各自の課題解決のために，学習に対して自主的・意欲的に取り組むことができるようにする。

2　期　日

平成２０年５月１７日（土）～５月１９日（月）

スローガン「そうだ　古都へ行こう」

～学べ日本の美　数々の歴史を～

3　宿泊地

「比叡山延暦寺会館」　〒 520-0116 滋賀県大津市坂本本町４２２０

「ハートンホテル京都」　〒 604-0836 京都府京都市中京区東洞院上ル

4　日程及びコース概略

○ 第１日目

内原駅発 …… 上野駅着 …… 東京駅発 …… 京都駅着 …… 東寺着……

7:43　9:40　10:47　13:08　13:45

延暦寺着（大講堂見学，演舞奉納，坐禅指導，特別法話）……「延暦寺会館」着

15:30　16:45　19:30　20:30

○ 第２日目

坐禅・奉仕活動「延暦寺会館」発 …… 班別体験学習活動（タクシー利用）…

5:30　8:30

「ハートンホテル」着… 梨木神社（体験学習「能」）… 「ハートンホテル」着

16:30　19:30　21:30

○ 第３日目

「ハートンホテル」発 …… 東大寺大仏殿…学級別活動 …… 近鉄奈良駅発 …

8:15　9:30　12:12

京都駅発…… 東京駅着 …… 東京駅発……友部ＳＩＣ・水戸ＩＣ…内原中着

13:42　16:03　16:20　コース別解散　18:40

5　実践から

（1）根本中堂での演舞

延暦寺根本中堂前庭での演舞奉納は，延暦寺の担当の方のご厚意で予定時刻よりも早く行うことになった。土曜日で観光客や参詣の方も多く，昨年の北海道札幌市の大通公園とはまた違った緊張感で気が引き締まった。３組の大津さんの前口上のあと，学年歌を歌った。静まりかえった木立の中に生徒たちの歌声が吸い込まれていくように響いた。その後，実行委員長の曽川さんの号令のもと南中ソーランとＹＯＳＡＫＯＩソーランの演舞が始まった。途中一度音楽が途切れるハプニングがあったものの生徒たちは一部ハッとしたけれど踊りきった。「動揺せず，仲間を信じて踊れるのはすごい」と職員全員が感じた。踊った後の一人一人の笑顔は素晴らしく，充実感のある感動体験ができたことを物語っていた。

宿舎に８０歳の老婦人がいらっしゃったが，我々の演舞があると聞いて根本中堂にわざわざ足を運んでくださった。そして終わるなり，「この年まで生きていてよかった，よいものを見せていただいた，感動しました」と声をかけてくださった。

生徒たちの感想

・自分たちの学年は感動を求める学年である，こんな学年が大好きだ。延暦寺で踊れてとってもうれしかった。

・みんなで踊り終わったとき，学年全体の絆が深まったなと思った。

・あまり練習していない中ではあったが，本番で声を出したり，力を込めて踊ることができてとてもよかった。また，いい思い出をつくることができた。
・今までの練習の成果を発揮した。去年の感動がまたよみがえった。
・特に印象に残ったものが２つある。１つめは，根本中堂で踊った南中＆ヨサコイソーランの演舞だ。お客さんもたくさん見えて，数ある歴史の中，根本中堂で踊れたことは本当に幸せなことだった。一生で一度の忘れられない思い出となった。
・１日目の１番の思い出では，やっぱり延暦寺でのＹＯＳＡＫＯＩと夜の法話です。今年は中学校最後の１年です。その最後に延暦寺でＹＯＳＡＫＯＩが踊れてとってもうれしかったです。夜の法話では，お坊さんの話がとても感動する話で，涙が出てきてしまいました。

（２）坐禅・奉仕活動

延暦寺での体験活動（法話，食事作法，坐禅，奉仕活動）を行った。夜，作法や心構えを教えていただき，翌早朝の坐禅に備えた。
その他，食事の作法指導と無言での食事，夜の根本中堂での特別法話などはすべて意義のあるもので，大変思い出に残るものであった。

朝５時起床，無言行動ということで，教師の指示なしで５時半５分前には全員玄関前に集合整列完了！根本中堂での坐禅は前日教えていただいた座り方と手の印を結び，半眼で呼吸を整え，心でゆっくり数を数え始めた。聞こえるのは鳥の声だけ…時間がとても短く感じられた。その後は奉仕活動の草むしり，両手で根っこからとる作業をよくできた。 事前指導が生かされ,「部屋の外では無言で行動する」「時間を守る…５分前集合」などがよく守れた。

生徒たちの感想
・延暦寺で法話を聞いたこと－なぜ，自分が生きてこられたかということを考えさせられた瞬間だったと思う。だから，これからも感謝の気持ちをもちながら生活していきたいと思う。
・修学旅行は修行旅行でもあった。自分の生活の豊かさを改めて実感し，いろいろなものに感謝していきたい。
・法話の中で，自分の実体験を通して『なぜ修行をするのか』ということ『全ての物事には何かきっと理由があるということ』などを教えてもらってとても勉強になった。
・坐禅は面倒かなと思っていたけれどやってみるとこんなに心を落ち着かせて周りの音を聴いたりしたのが初めてだったのでとても気持ちがよかったです。
・早朝の坐禅も印象的でした。朝，４時半起きというとても眠い中での坐禅はとてもつらく寒かったです。しかし，坐禅の中で無心になり，呼吸を整えるということをやっていると，なぜか自分も夢中になりました。呼吸の数を数えていると，あっという間に時間が過ぎ，１０７回を過ぎたところで終わりの時間になり，何というかとても不思議な体験でした。
・私は農業が大好きなので，“ 草むしり ” をやると聞いたときにはとてもうれしかったです。世界遺産の所で草むしりをやる機会はそうはないと思うので，すごく楽しくできました。
・「今ここにいるのも意味がある」という言葉も印象に残りました。今までは普通に笑ったり，泣いたりして過ごしてきただけなのに，それが意味があると言われたら,「もったいない時間を過ごしたな」って思うことがたくさんあって，この法話で自分を見つめ直すことや，考える機会ができてよかったです。

（３）班別体験学習

２日目は，班別行動の中に体験活動を取り入れた。昨年の職場体験の経験を生かし，班ごとにアポイントをとり，それぞれ「京都でしか体験できないもの」の体験を楽しんできた。個人タクシーの運転手さんの案内にきちんと従い，よく話を聞き，予定通り活動することができた。また，自分たちで予約を取った体験活動を楽しむことができた。

夜は，梨木神社で能の鑑賞をした。梨木神社までを京都御所経由の徒歩とし，京都の町並みを体験させた。梨木神社では丁寧な説明と迫力ある演技を堪能した。

タクシーの運転手さんからは,「みんなとっても素直でええ子ですな」「こんなに話を一生懸命聞いてくれはると，やりがいがありますな」というお褒めの言葉をいただいた。

生徒たちの感想

・修学旅行は，どの行事も充実していました。日本の文化や歴史にふれ，楽しむことばかりではなく，自分の心も磨かれました。どの活動も楽しく，最高の修学旅行となりました。

・私は修学旅行で命を大切にすることの大切さ，仲間のために働くことの大切さを学びました。人生に１回しかない中学校３年生での修学旅行は，私にとって一生の思い出となりました。

・体験活動で行ったロクロでの作陶も心に残っている。ロクロ教室の方が丁寧に教えてくれたので，初めてだったがとてもよい作品ができた。一生の宝物にしたい。その後には，能の鑑賞だ。もちろん初めての能だ。生で見た本物の能はとてもすごい迫力で，これも一生の宝物になるだろうと思った。

・班別では，私たちの班は体験で着物を着て金閣寺や白峰神宮を散策しました。着物を着ることができて少しだけ京都の人になれたような感じがしてよかったです。茨城では絶対体験できないことだと思いました。着物…最高でした。

＜　資料　⑩　修学旅行のしおり　＞

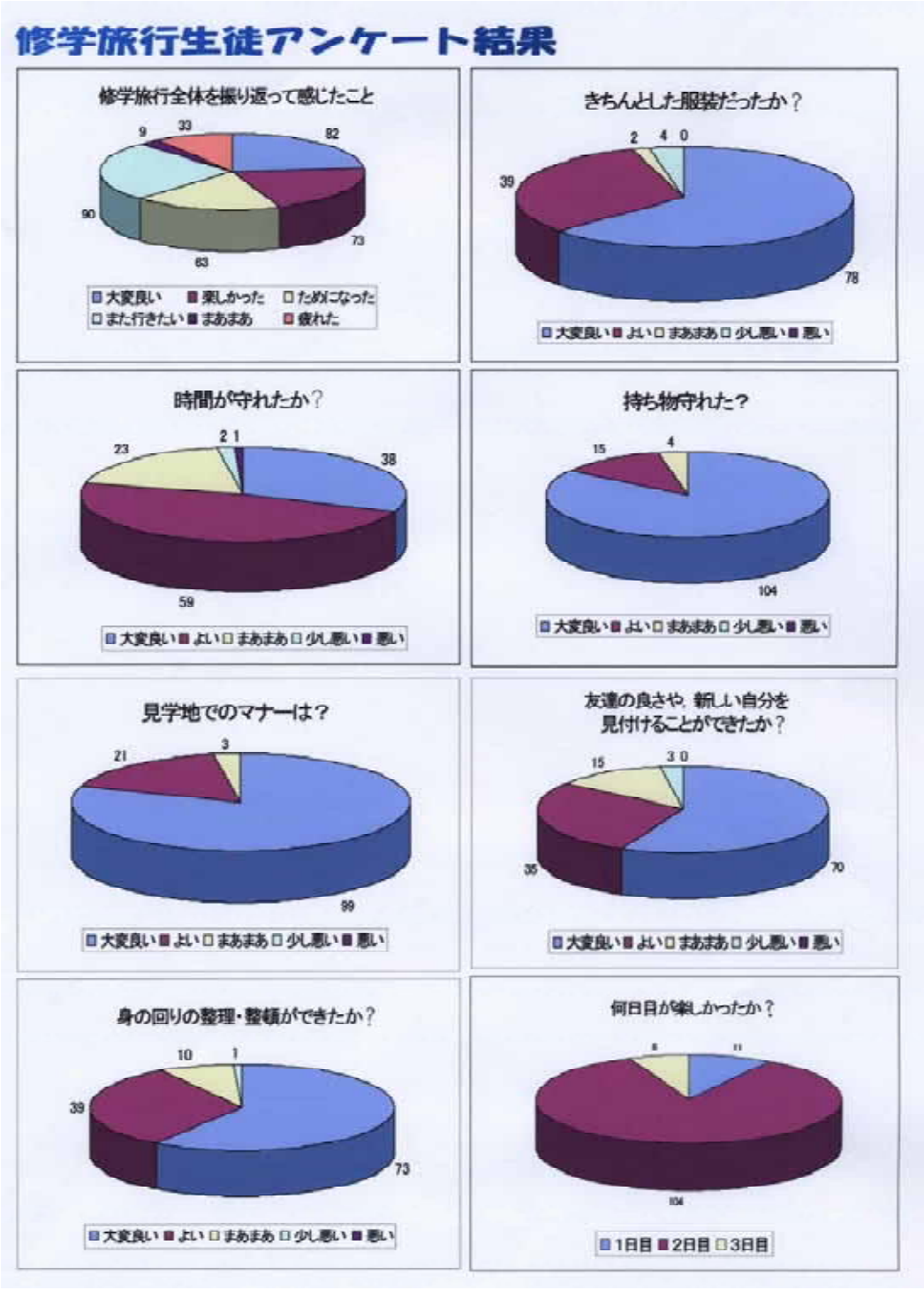
（４）旅行後のまとめ

ア　アンケート結果から

・　前年度の北海道に次いで中味の濃い修学旅行だったが，それぞれが，良かったと感じるものだったようである。

・　服装・決まり・マナーなどもきちんとしており，それができたこと，そしてそれをいろいろな方に評価してもらえたことが，生徒たちにも自信や誇りにつながった。

・　「立志の１年」から続く「自分発見の旅」というサブテーマについても，十分意識が高まり，「友達のよさや，新しい自分を見つけること」「自分の生き方について考えること」「周囲の人への感謝の心」をもつことができた。



イ　生徒たちの発表　　＜　資料　⑪　＞

事後の活動として，学んだこと，体験したことをいろいろな形でまとめた。

- 旅行後，お世話になった方々，体験先の方々へのお礼状を全員が書いた
- 旅行についての感動を伝える俳句づくりと掲示
- 作文や修学旅行新聞作り　　＜　資料　⑬　＞
- 国語科によるパンフレット作り
- 班別活動のまとめと発表会（　学級発表会，学年発表会，保護者会での発表会　）

　　いろいろな方法　・模造紙　＜　資料　⑫　＞
　　・紙芝居
　　・パワーポイントでプレゼンテーション
　　・実演，実物提示

※　担任による学級通信の発行　　＜　資料　⑭　＞

＜　資料　⑪　学年発表会　＞

＜　資料　⑫　模造紙発表　＞

着物で歩く京の町
START
メンバー
まとめ
GOAL

School trip
メンバー
清水寺

地図で巡る古都の旅
平安神宮

スタート
清水寺
ゴール
古都の歴史にふれて文化を楽しもう
体験

みつき新聞
～修学旅行編～
体験学習
東大寺

古都のかほり
01日目
京都へ出発
清水寺
02日目
成長記
03日目

古都の便り
南中ソーラン in
清水寺
19日
I'm home
18日
5月17日
Let's GO

修学旅行の3日間新聞
そうだ古都へ行こう!
東大寺
清水寺
金閣寺(鹿苑寺)

＜　資料　⑬　修学旅行新聞　＞

We Can Do It!
内原中学校3年3組
学級通信 NO.31 5/16(金)
＜2日目京都市内班別活動メンバーと見学コース紹介!!＞
3班
＜見学&体験コース＞
★ 金閣寺
★ 仁和寺
★ 妙心寺
★ 運転手さんおすすめの所で昼食&おすすめの場所を見学!!
★ 嵯峨野で体験活動（ロクロで作陶）
★ 清水寺（見学&買い物）
＜金閣寺（鹿苑寺）＞
足利義満が自らの隠居所として造営した北山殿を前身とする。
金閣寺の建築に使われている金は総量20kg。そこには2階、3階と金箔が職人に施されているよ!
「鏡湖池」に浮かぶように立てられた金閣。湖に映し出されたもう一つの金閣を見てこよう!!
「土塀」を見てみよう!! ― 金閣寺寺域の周囲にめぐらされた土塀には最も高い寺格を示す。5本線が入っているよ!!
「陸舟の松」（りくしゅうのまつ）義満の故事を移植したと伝わる松。船の形をしており、
↑今日の金閣寺の写真です

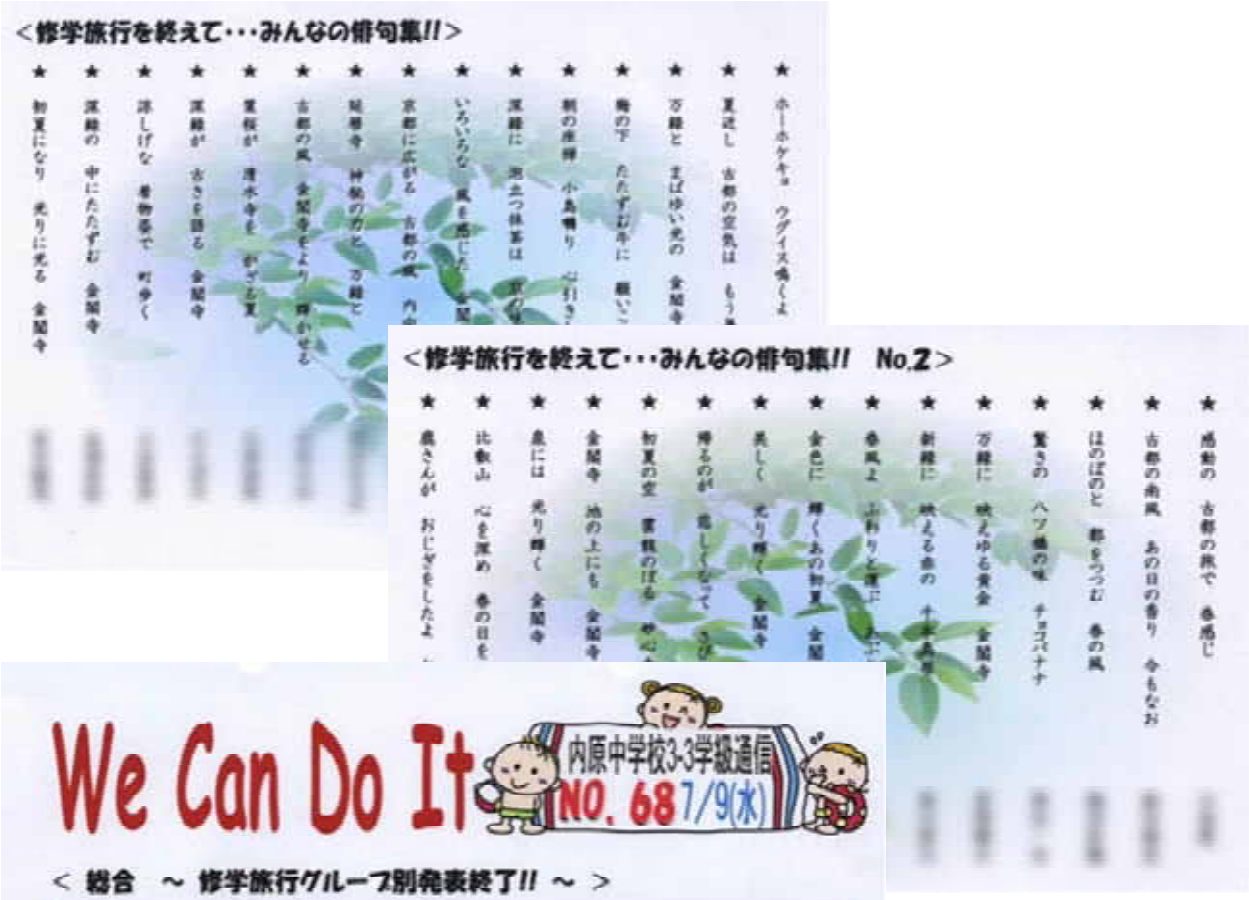
We Can Do It!
内原中学校3年3組
学級通信 NO.32 5/16(金)
＜2日目京都市内班別活動メンバーと見学コース紹介!!＞
＜見学&体験コース＞
★ 清水寺&地主神社（お参り・おみやげ買い）
★ 茶房こいし（抹茶パフェ）
★ 鳥よし（おみやげ&絵付け体験）
★ 金閣寺
★ いっぷく茶屋（おやつ!!）
★ 白峰神社（お参り）
★ 鳥よし（絵替え、昼物一制覇）
5班
＜清水寺＞
創立は798年。坂上田村麻呂が千手観音の像を安置するために堂宇を建立した。
「清水の舞台」で名高い本堂は、斜面に張り出した舞台造りで、（1本も釘を使っていません）ここから眺める景色はため息が出るくらい絶景です!この本堂は高さ約11m目もくらむ樹木の上を、観音（げんのん）の名手といわれた藤原成道は、舞を踊りながら往復したとか。
おみやげ屋さんもたくさん並び、買い物をしていると時間が経つのも忘れてしまいますので、ご注意を・・・。
「地主神社」は清水寺の鎮守社で縁結びの神様として有名??? 「音羽の滝」は、清水寺の名にも由来する名水の滝。飲めば無病息災、不老長寿がかな

4班
＜班長から一言＞
運転手さんへの感謝の気持ち。
古都を楽しむ。
班をきちんとまとめる

We Can Do It!
内原
学級
＜2日目京都市内班別活動メンバーと見学コース
7班
＜北野天満宮＞
その中にたった1体だけ、赤い目の牛があり、その牛をなでると・・・、昨年度は、みんなで牛の頭をなでなでしてきました。（全部
梅の名所でも有名で、赤い目の牛は、梅の木にかくれるように
＜修学旅行前の生活の記録ノートより＞
★ 選択Ⅰで、小室（基）先生が京都の話を1時間してくれ
私は社会の選択です。修学旅行前に京都のおきのことや、
シカに囲まれたときの対処方法などをたくさん聞けて面白
です。
★ 今日は本当に最後の演舞練習。ミスをせずに最高の踊り
本番でしたい。
★ 久しぶりに晴れた。修学旅行までがあと・・・しかない
しかも、今日荷物送り!? はやいよぉ…。だから京都では
に流されないように1秒1秒を大切にしていきたいです。
★ 修学旅行まであと1日となる。楽しみなので、事故にあ
★ 明日の修学旅行が楽しみ!! おみやげ目を買おうかなぁ～
★ 準備の確認をしました。みんなで京都をENJOYしたい

We Can Do It!
内原中学校3年3組
学級通信 NO.34
素晴らしい思い出を
ありがとう!!
「一人一人が主役!
あなたも
あなたも
あなたも・・・」
全員が
精一杯頑張り
活躍できた
最高の修学旅行でした!

＜　資料　⑭　学級通信　＞



＜修学旅行を終えて・・・みんなの俳句集!!＞

★ ホーホケキョ　ウグイス鳴くよ
★ 夏近し　古都の空気は　もう
★ 万緑と　まばゆい光の　金閣寺
★ 梅の下　たたずむ牛に　眼いっ
★ 朝の座禅　小鳥鳴り　心引き
★ 深緑に　泡立つ抹茶は　京の
★ いろいろな　風を感じた　金閣
★ 京都に広がる　古都の味　内
★ 延暦寺　神秘の力と　万緑と
★ 古都の風　金閣寺をより　輝かせる
★ 緑桜が　清水寺を　かざる夏
★ 深緑が　古さを語る　金閣寺
★ 涼しげな　巻物巻で　町歩く
★ 深緑の　中にたたずむ　金閣寺
★ 初夏になり　光りに光る　金閣寺

＜修学旅行を終えて・・・みんなの俳句集!!　No.2＞

★ 感動の　古都の旅で　春感じ
★ 古都の南風　あのヨの香り　今もなお
★ ほのぼのと　都をうつむ　春の風
★ 驚きの　ハプ橋の味　チョコバナナ
★ 万緑に　映えゆる黄金　金閣寺
★ 新緑に　映える赤の　千本鳥居
★ 春風よ　ふ彩りと薫に　あ
★ 金色に　輝くあの初夏　金閣
★ 美しく　光り輝く　金閣寺
★ 帰るのが　寂しくなって　うば
★ 初夏の空　雲戦のぼる　ゆ心
★ 金閣寺　池の上にも　金閣寺
★ 鳥には　光り輝く　金閣寺
★ 比叡山　心を深め　春のヨを
★ 農さんが　おじぎをしたよ

We Can Do It

内原中学校3-3学級通信
NO. 68 7/9(水)

＜ 総合　～ 修学旅行グループ別発表終了!! ～ ＞

先日，7／1（火）学活の時間を活用して，修学旅行のグループ別発表を開催しました。発表では各班毎に，修学旅行で行ってきた体験活動や，班別活動の様子をみんなにわかりやすくまとめて発表したり，体験活動で作成した実物をもってきて提示したり，パソコンを使ってプレゼンテーションを行ったりと，趣向を凝らした素晴らしい発表をすることができていました。大変レベルの高い発表会で甲乙つけがたい内容ばかり・・・・担任にも発表に対する皆さんの熱意や努力が伝わってきて，本当に感動してしまいました。また，7／4（金）には，学級代表として選出された４つの班が学年の発表会で堂々と発表することができていました。発表をする側はもちろんのこと，その発表を聞く皆さんの態度も大変素晴らしく感心してみておりました。

夢現

内海中学校
3年2組学級通信
第32号
5月28日（水）
担任：竹鼻信介

修学？修行？修学！

稀少な体験

世界遺産を守るべき修学旅行は、みんなで記念撮影。明からすがすがしい気分でいっぱいでした。

世界遺産に指定（1950）・『東京のメリークリスマス』公開（1983）

夢現

内海中学校
3年2組学級通信
第33号
5月29日（水）
担任：竹鼻信介

東寺VS興福寺

日本NO1・2

「いぶき」より

修学旅行から中間テストへ
そして、総体・高校見学へ

今日は富士の日【5/29】：ドッキリ セクシーポリス(ロケット)、解禁(ことの日)に、『ビルトに世界初登場(1953)

Ｖ．成果と課題

修学旅行では船中泊を伴う宿泊学習での経験を生かし，修学旅行実行委員会を中心に決まりや約束事を決めたので，伸び伸びした中にも自重した行動が見られた。延暦寺での演舞奉納をはじめ，坐禅や法話，食事作法などの研修修行は実行委員会で決めたねらい「新しい自分発見」につながるものとなった。

さらに，班別体験活動でも自分たちで考え行動することで，活動の活発化を図ることができた。旅行をとおして学級における人間関係が深まり，歴史や文化についての知識を得たこともよい勉強になった。

１年の前期の学年委員は，３つの小学校からの既成のリーダーたちだったが，学年目標を各クラスの目標を表す漢字１文字にこだわって,「真志信友」を１週間かけて作り上げた。まさに,「学年ひとつ」がこの時，産声をあげたのかも知れない。

２年生では結束力を高め，個が生きるための手立ての１つの方法としてＹＯＳＡＫＯＩソーランを中心にいろいろな活動を行ってきた。他にリーダー育成の手立てとしてとして，学年として学級委員と部活動の部長をできるだけ重複させないことで，個が活躍できる場面を設定してきた。

３年間を見通した学年作りは，常にどんな学級作りをするかにかかっている。逆にいえば中学校の場合，学級担任の個性を尊重しながら，学年作りをしていくものだと言えると思う。
ＹＯＳＡＫＯＩソーランを通して，この３年間で生徒たちが，職員がまとまっていった。学級団結，学年団結につながっていったのである。３年間継続して上がってきた職員は私と２人の担任だけであるが，それぞれの学年でかかわってくださった学年職員のみなさんの意思の統一がはかれ，行動力として表れたことは本当に感謝している。

ＹＯＳＡＫＯＩソーランを通して，地域との関わりをはじめ，生徒たちの世界も広がりを見せた。

昨年度は，２年生（現３年生）が体育祭でＹＯＳＡＫＯＩソーランの演舞を披露し地域の方にも好評であった。本年度は，３年生が，ぜひ後輩にも感動を受け継いで欲しいとの願いから本校の１，２年生にＹＯＳＡＫＯＩソーランの指導をし，体育祭での全校演舞が実現した。
結束力を高める「学年ひとつ」の精神が「学校ひとつ」をめざし学年として貢献できたのではないかと思う。

また，その評価の一つが，各団体からの演舞依頼ではないかと考えている。これから進路・受験等で忙しい時期ではあるが，さらに地域とのつながりを大切にしていきたいと考えている。

さらに，この生徒たちが卒業後，地域に貢献できる人間としての成長も期待したい。

◇地域との関わりを通して

○　もみじ館での演舞

平成１９年８月，地域の老人福祉施設「もみじ館」から，夏祭りへの演舞依頼があった。有志生徒１３人により，演舞に参加した。少人数であったが，生徒たちも精一杯踊り，施設の方にも喜んでいただけたことで自分たちの感動体験をまた伝えることが実感できた。

○　県陶芸美術館での演舞

平成１９年１２月，立志関連行事として，笠間市へ校外学習を行い，生徒全員が陶器の記念品作りをした。その後，県陶芸美術館の見学を行い，美術館の玄関前の広場で，南中ソーランとＹＯＳＡＫＯＩソーランの演舞を披露した。見学に訪れていた方たちのあたたかい拍手をいただいた。

○　ケアレジデンス水戸での演舞

平成２０年８月，もみじ館の関連グループ施設「ケアレジデンス水戸」から，前年年度の評判を聞いて演舞の依頼があった。有志生徒１４人により参加した。

○　Ｖリーグでの演舞

平成２０年２月，Ｖリーグひたちなか大会の試合前の演舞依頼があり，学年全員で参加した。立志式の１週間前であったが，自分たちの学年の紹介や活動を観客の前で堂々と発表し，気合いの入った演舞を披露することができた。Ｖリーグのチームの応援団の方も一緒に客席から踊ってくださったりしてあたたかい声援もいただいた。

＜　演舞の前の口上　＞

学校代表

会場のみなさま，こんにちは！

私たちは，茨城県の中心ある水戸市から来ました，水戸市立内原中学校です。本日は，Ｖ・プレミアミリーグのイベントに参加させていただきありがとうございます。

私たち２年生１２５名は，昨年，札幌市開催の「ＹＯＳＡＫＯＩソーラン」に参加させていただき，大きな感動を体験してきました。今度は，この感動をたくさんの人たちに伝えたくて学年全員「内中魂」を胸に頑張っています。

主な活動を紹介すると，体育祭などの学校行事はもちろん，笠間市にあります「陶芸美術館」や地域の老人福祉センターの夏祭りイベントに招待されて踊りました。
今後は，立志式や修学旅行で延暦寺に行き，「根本中堂の庭園」で踊ることなどが決定しています。インフルエンザも流行してしまい，全体練習も数回しかできませんでしたが，見ているみなさんが元気になるように頑張りたいと思います。

また，踊る前に歌う曲「希望の花」は，昨年の１１月頃から，学年内で詩を募集し，応募があったものを組み合わせ，実行委員が２か月間もかけて作曲したものです。はじめて作詞・作曲したオリジナル学年歌です。一生の応援歌になるように作りました。合わせてお聴きください。

今日は，Ｖ・プレミアミリーグにということで，踊る隊形もＶの文字を入れてＶリーグバージョンで踊ります。　では！わたしたちの演舞をご覧ください。

○　小学校・養護学校での演舞

平成２０年１１月１５日，生徒たちの出身小学校の１つである内原小学校と交流のある内原養護学校から演舞の依頼があり，それぞれ４０名ほどで参加する予定である。